

## 1 法人の概要

## 2 事業の概要

### (1) 当該年度の主な事業の概要

### (2) 教育研究の概要

- ① 学部学科組織
- ② 教員組織及び教員数並びに教員の学位等に関する情報
- ③ 学部・学科の学生定員及び在籍学生数等(学部)
- ④ 教育課程に関する情報
- ⑤ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報
- ⑥ 学習環境に関する情報
- ⑦ 学生納付金に関する情報
- ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

## 3 財務の概要

### (1) 財務の概要

### (2) 財産目録

### (3) 貸借対照表

### (4) 収支計算書

- ① 資金収支計算書
- ② 消費収支計算書

### (5) 監査報告書

## 2012 年度法人の概要

### ◎目的

教育基本法及び学校教育法に従い、芸術立国の志によって世界の恒久平和に寄与し、これに資する人材の育成を目的とする。

京都文藝復興 <http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/idea.html>

### ◎沿革

1934 年 藤川衣服研究所開設

1947 年 財団法人藤川衣服研究所認可

1951 年 学校法人の認可

1959 年 学校名を藤川服飾学院に、学校法人名を藤川学園に改称

1964 年 藤川デザイン研究所設立

1967 年 藤川デザイン研究所を藤川デザイン学院と改称

1975 年 藤川服飾学院を京都服飾藝術学院、藤川デザイン学院を京都造形芸術学院と改称

1977 年 京都芸術短期大学（造形芸術学科）を設置

短期大学開設に伴い、京都服飾藝術学院、京都造形芸術学院を廃止

1979 年 専攻科を設置（「学士」学位が取得可能に）

学校法人名を瓜生山学園に改称

1991 年 京都造形芸術大学（芸術学部）を設置

1996 年 大学院芸術研究科（修士課程）を設置

1998 年 通信教育部（芸術学部）3 学科 8 コースを設置

2000 年 京都造形芸術大学、京都芸術短期大学を統合し、総合芸術大学に再編

大学院芸術研究科芸術文化研究専攻、芸術表現専攻（修士課程）、芸術専攻（博士課程）を設置

2001 年 京都芸術劇場を開設

2002 年 通信教育部（芸術学部）を 3 学科 11 コースに改組

2003 年 通信教育部（芸術学部）を 3 学科 12 コースに改組

2005 年 こども芸術大学を開設

康耀堂美術館が本学に寄贈される

2007 年 通信教育部大学院修士課程を設置

芸術学部を 10 学科 29 コースに全面改組

社会芸術総合研究所を開設

2009 年 芸術学部を 10 学科 31 コースに改組

通信教育部（芸術学部）を 3 学科 13 コースに改組

2011年 芸術学部を13学科34コースに改組

通信教育部（芸術学部）を3学科14コースに改組

◎設置する大学（2012年5月1日現在）

- ・設置者 学校法人瓜生山学園
- ・所在地 京都市左京区北白川瓜生山2番地116号
- ・理事長 徳山詳直
- ・設置する大学 京都造形芸術大学  
学長 千住 博

◎役員及び教職員に関する情報（2012年5月1日現在）

役員		教員		職員	
理事	17名	教授	123名	法人	11名
評議員	35名	准教授	66名	大学	173名
監事	3名	講師	22名		

◎役員一覧（2012年5月1日現在）

- ・理事  
理事長 徳山 詳直  
副理事長 古澤 茂堂  
専務理事 徳山 豊  
常務理事 大野木 啓之  
学長 千住 博  
五十嵐 眞二  
上村 博  
小川 後楽  
片上 義則  
北村 誠  
熊谷 尚之  
坂元 徹  
高久 正史  
椿 昇  
西崎 義雄  
根岸 吉太郎  
水谷 幸正
- ・監事  
斉藤 利一郎  
松芝 政雄  
湊 信明

## ■平成23年度事業報告

平成 23 年度は、これまで目標達成に向けて実施してきた各取り組みのブラッシュアップを図る期間と位置づけた。この流れの中で、学園理念実現の推進を強化するために、姉妹校である東北芸術工科大学との法人統合を両法人理事会で決議し、文部科学省へ申請した。残念ながら統合は山形県、市の地元の理解を得ることが出来ず白紙撤回となったが、このことを契機に、一層の教学上の連携強化をすることを双方で確認し、平成 24 年 3 月から両大学合同学長会議を開催し、平成 24 年 4 月より東北芸術工科大学根岸学長および片上デザイン工学部長を本学園理事に迎え、教学上の連携体制を整えた。

通学課程芸術学部はマンガ学科、プロダクトデザイン学科、文芸表現学科が開設し、在籍者数が過去最高の 3,061 名となった。また本年度実施した平成 24 年度学生募集の結果、入学者数が 852 名となり、平成 24 年度在籍者数が 3,135 名とさらに増加した。

通信教育課程芸術学部においては和の伝統文化コース、臨床美術士課程(科目等履修、正科生)の受け入れを行ったものの、平成 23 年度入学志願者が 1,145 名と過去最低となった。このことを受け、社会人の学びをさらに支援するために、平成 25 年度に新学科を設置することとした。

### 1. 通学課程

#### ■芸術学部

##### ①進路決定状況

「学生の出口が明快な芸大として、入り口で優位に立つ」。通学課程の目標に向けた活動の中、平成 22 年度の進路決定率(64.1%)は芸大では突出した成果となり、前年度からの伸び率は日本の大学で1位となった。そして平成 23 年度はその数字をさらに上回る結果となった(同 70.9%)。しかしながら依然、4 人に 1 人は就職活動すら行わない状況にあり、進路決定率そのものもいまだ一般大学平均(22 年度 76.6%)を大きく下回ったままである。非正規雇用者を除いた進路決定率は 59.7%と前年を下回った。これは学内外の大学院への進学者が 6.5%とおよそ半減(22 年度 11.8%)し、平成 12 年の総合大学化以降で最低数となったことが原因である。後述の基礎学力の問題を含め、対応が喫緊の課題となっている。キャリア支援授業は 23 年度より全 36 単位を設置。前年の 2 倍となる科目を設定したが、出口(進路)を想定した教育カリキュラムの構築(出口のシラバス化)はまだ手を付けはじめたばかりである。またきめ細かな進路指導を行う学科ほど成果が上がる状況が生まれつつあり、学科間の指導力の差を埋めるためのノウハウの共有、教育力の向上も課題となっている。

##### ②教育改革の進捗

平成 23 年度はこれまでの取り組みを「学生本位」の視点で客観的に検証をし、次代の「芸術大学スタンダード」の構築を行うことを目的とした。その活動の一環として、外部機関

とも協力し、中途退学の実態調査及び分析を行い、現在のカリキュラムの課題抽出をおこなった。更に平成24年度に、基礎学力の調査を目的として、英語及び国語のテストを、1・3年生全員を対象として実施する事とした。教務委員会を中心として行われたFD活動としては、①教職員合同研修、②入学前プログラムの改善、③授業アンケートの改変、が行われた。また、本学に入学してきている学生の実情に合わせた新カリキュラムと指導體制の構築を目指して、平成23年12月に根之木学部長代行をリーダーとした「カリキュラム検討委員会」を発足。平成24年6月での教授会提案に向けて準備を開始した。更に、教員の教育力の向上を目指して、平成24年2月から、集中研修制度である「教育力向上プロジェクト」を27名の教員を対象に開始した。1年間で、2日間の集中研修を4回、授業参観を2回実施し、各学科における教育力強化推進を担う教員の養成を目指す。平成24年度のカリキュラムでは、平成23年度に引き続きキャリア科目の拡充を図っている。

### ③学生募集

平成24年度入学の学生募集は、総志願3,585名(前年比725名減、83.2%)と前年を下回った。夏期コミュニケーション入学で1,091名と昨年の951名を大きく上回ったが(前年比140名増、114.7%)、以降の入試で出願数を伸ばすことができなかった。全国の美大・芸大の志願者が平均して毎年10%減少する厳しい募集状況が続く中で、多くの大学がAO入試の実施回数と合格者数を増加させていることが原因と考えられる。なお、平成23年度学生募集では志願者数を増加させていることから、2年間の経年では、他の芸術系大学よりも志願者数の減少率は少なくなっている。

資料請求者数は、受験対象学年で、15,965名(前年比1,785名増、112.6%)、オープンキャンパスでも受験対象学年は、2,295名(前年比102名増、107.3%)とともに大きく増加させたが、その結果を全体の志願者増に結びつけることが難しい状況となっている。今後は、資料請求者および接触者増を図る施策はもちろん、接触者の出願率の向上と維持を図る施策も合わせて求められる。

## ■大学院

平成23年度は、修士課程で65名(学術10名、芸術55名)、博士課程6名(学術4名、芸術2名)が学位を取得した。修士課程においては、これまでで最も多い学位取得者となった。また、平成24年度入学生の内24名が留学生となり、11カ国(地域)の学生が在籍することとなった。留学生24名の内5名(イタリア、インドネシア、ウルグアイ、ブラジル、ロシア)は国費留学生となっている。

大学院入試については、学生募集活動を入学課に移行して3度目の募集となったが、総志願者数は、118名(前年比6名減、95.2%)となった。全体の特徴として、修士課程において、学外志願者は64名(22名増)、留学生志願者は33名(18名増)という今年度の目標は達成した一方で、学内志願者は54名(28名減)という結果になった。なかでも、修士課程

の日本画、油画のペインティング領域の学内志願者が14名となり、前年比15名減(48.3%)と大幅に減少した。今後は、留学生および学外志願者の増加を図りながら、学内志願者、特に占有率の高いペインティング領域の学内志願者の確保が求められる。

大学院では、学部との連携をいっそう強化するため新たな運営体制を構築し、学部からの6年一貫教育を視野に入れて、学内の全教員が指導教員となる体制を、平成22年度からスタートさせ2年目となった。又、学科ヒアリングを行い、指導領域の拡大を行い、学内進学者の減少に対応する為に、平成25年度入試における、前期日程の変更、また、面接を領域学科にて担当し専門試験とするなどの変更を決定した。

## 2. 通信教育課程

### ■通信教育部芸術学部

#### ①社会人にとってより学びやすいカリキュラムへの改革

平成23年度は、和の伝統文化コース、臨床美術士課程(科目等履修、正科生)の受け入れの開始、平成22年度に受け入れを開始した芸術学科・デザイン科の3年次異分野編入学生を卒業生として送り出した。芸術学科、デザイン科の3年次異分野編入学生受け入れと東京完結スクーリングについては、芸術学科、デザイン科の全コースが京都・東京どちらのキャンパスにおいても最短の2年間で卒業が可能となり、社会人にとって受講しやすいカリキュラムが完成した。

美術科では日本画コースにおいて、京都だけではなく、東京において卒業制作までを受講できるカリキュラムとなるよう設計し、平成24年度より1年次から4年次の卒業制作までのスクーリングを東京でも開講する準備を整えた。写真コースは、アナログからデジタルへと表現方法が多様化する中で、デジタルのみの制作でも卒業が可能となるカリキュラムに専門教育科目の改編を行った。

また、外苑キャンパスではスクーリングを546講座開講し7,204名が受講、大阪サテライトキャンパスでは34講座に711名が受講し積極的な活用をしている。またスクーリングだけでなく、東京芸術学舎としてエクステンション講座を開講、大阪は平成24年度から大阪芸術学舎として開講のための準備を行い、通信教育部在学学生にはスクーリングとしても単位連携される仕組みとなっている。

#### ②学生募集と新学科設置準備

平成24年度学生募集は、総出願者1,250名(前年比105名増、109.2%)となり、平成19年度以降最高の出願数となった。新コースの設置やスクーリング日程の軽減等の施策がない中で、通信教育部での学びの魅力や喜びを繰り返し伝える広報戦略(DM、メルマガ、説明会での体験授業等の新規立ち上げ)が、単独説明会の来場者増(24年度京都+東京説明会合計1,595名、前年比348名増、128%)につながり、その結果出願増にも

つながった。また、出願者のうち 70 名が東京芸術学舎の講座体験者となり、学舎のプログラムも当初の狙いどおりの結果につながりつつある。科目等履修生は、博物館学芸員課程が 82 名(前年比 26 名減、75.9%)、設置 2 年目を迎えた臨床美術士資格課程が 63 名(前年比 8 名増、114.5%)となった。

また、社会人教育における「次代の芸術大学スタンダード」の実現を目指し、より幅広い層の社会人が学習できるよう、平成 25 年度に向けて、芸術教養学科の開設準備を行なうことを決定した。この学科では、社会人学生の学習のボトルネックとなっていた、スクーリング(対面授業)の受講をすることなく卒業できるカリキュラムの構築をおこなう。

#### ■大学院 芸術研究科[通信教育] 芸術環境専攻

平成 23 年度は、90 名の入学生を迎え、61 名の学生が修了制作・研究に取り組み、結果として、芸術環境研究領域 15 名、美術・工芸領域 26 名、環境デザイン領域 18 名の計 59 名が修士の学位を取得した。

芸術環境研究領域(芸術学分野、歴史遺産分野、文芸分野、芸術環境計画分野)、美術・工芸領域(日本画分野、洋画分野、陶芸分野、染織分野)では、主担当教員からの指導だけではなく、複数教員から指導が受けられる体制とし、より幅の広い指導が受けられることを実現した。また、環境デザイン領域の庭園・ランドスケープデザイン分野の分野名称については、より指導内容(庭園史研究・文化財庭園・作庭技術)に特化した分野の名称とするため、日本庭園分野に変更した。

平成 24 年度入学生は 82 名となり、2 年連続入学定員を上回った。

### 3. こども芸術大学

平成 23 年度は、4 月入学者 11 組(4 月時点の在籍者は前年同様 37 組)、11 月入学者 2 組となった。卒業生 11 組を送り出し、卒業生は総勢 55 組となった。こども芸術大学の保育・教育手法の体系化の成熟と、こども芸術大学の思想を普及・啓蒙する方法を模索することを年度目標と掲げたが、オランダからイエナプランのリヒテルズ直子氏や絵本作家のアレックス・デ・ウォルフ氏、イギリスのニュー・カレッジ・ノッティンガムの学部長ニック・ホワイトハウス氏からの取材を受けたり、日経ビジネスオンラインの紹介記事が掲載されるなど、発信力強化につながった。

### 4. 外苑キャンパス

開設より 2 年目を迎えた外苑キャンパスでは、長年にわたる社会人通信教育の実績を基盤とし、本学と東北芸術工科大学が共同で、以下の社会人教育事業を展開、試行を重ねつつ定着に向けて一步を踏み出した。

東京芸術学舎については、前年度課題を踏まえ再構築施策を立案し、夏季より実行に移した。その結果、145講座を企画し、受講生数は2,687名、受講料収入64百万円となった。受講生数2,687名の内訳は、一般1,643名、通信学部在学学生813名、通信卒業生・大学院生231名となっており、社会人の芸術教育機会の裾野を拡大しつつ通信教育部のダブルスクール受講のニーズにも十分に答えていることが認められる。また、平成24年度の通信教育部への入学に結びついた学舎受講生は70名におよび両者の有益な学び連携が明確な道筋として見え始めている。

東京企画構想学舎、プラネタリーデザイン講座については、その受講生の特性として、年齢では20代~30代、性別では男性がそれぞれ7割を占める。芸術系大学ならではのビジネスキャリアの育成をめざし、ややもすれば資格取得や実務スキルに直結させることに偏りがちな競合の社会人教育事業とは一線を画す、高品質な学びの機会として、特異な位置づけを築きつつある。また、東京企画構想学舎では、実施講座の映像配信を享受する受講生を募る、プラネタリーデザイン講座では、共催企業から協賛金を募り、この協賛金で講座を運営、共催企業関係者、さらに一般へも受講機会を開いていくなど、講座の副次的な広がりをも促進、新たな教育事業モデルの構築につながる成果を生んでいる。結果、東京企画構想学舎では受講者数128名、映像配信受講者数65名となり、プラネタリーデザイン講座では協賛企業受講者608名、一般受講者97名という結果となった。

## 5. 国際交流

平成23年度は、学生の海外派遣の促進と、学生の英語力の底上げの2点を最重要課題として、学生が国際化社会で活躍できるための英語力・異文化適応力を養成する仕組みづくりを実施した。

### ①学生の海外派遣促進

海外派遣促進のため、交換留学協定校を3校から7校へ増やし、派遣枠を5名から16名に増員。また、韓国芸術総合学校との夏期共同ワークショップを実施し、初の専門短期派遣プログラムを実施した。さらに、上海のアーティスト・イン・レジデンスを整備し、卒業生2名を派遣した。

大学が提供する海外派遣プログラムによる派遣者数は84名となった。内訳は交換留学(チューリッヒ芸大、ジュネーブ造形芸大、グラスゴー美術学校、マサチューセッツ造形芸大計7名)、第5回ラ・プリマヴェーラ賞(3名)、海外研修ツアー(4ツアー、58名)、蒼山会海外体験補助4名、韓国夏期WS10名、上海レジデンス2名となっている。

### ②英語力・異文化適応力の養成

英語学習プログラム参加者数は延べ795名。内訳は英語自習ソフトロゼッタストーン利用者350名、学内TOEFL講座受講者12名、英語カフェ98名、英会話ランチ317名、

蒼山会 TOEFL・IELTS 受験補助 18 名となっている。

そのほか、学内国際交流プログラム参加者数は延べ 862 名となった。内訳は国際交流学生サポートスタッフ ARTLINK(メンバー12名、プログラム参加者 474名)、国際交流プロジェクト・レクチャー385名、交換留学生の受入 3名となった。海外派遣に関する情報提供とサポートによる学生との接触数は延べ 896 名。内訳は窓口カウンセリング 203 名、メーリングリスト情報提供登録者 693 名となった。

また、文化庁の平成 23 年度文化芸術振興費補助金を受け、「クリエイターズ・イン・ユニバーシティ」として、学内の各学科・部署が担当する 7つのアーティスト・イン・レジデンスプログラムを実施。プログラム合計で学生・一般 2,948 名の参加者・来場者を集め、本学の国際的な認知を高めた。

## 6. 研究センター・産官学連携

### ・舞台芸術研究センター

舞台芸術研究センターでは、企画製作した「マラルメ・プロジェクトⅡ『イジチュール』の夜」をはじめ 15 の主催公演と 3 つのシンポジウム・研究会・レクチャーを実施し、刊行物『舞台芸術 16 号』を企画・編集した。平成 21 年度から 5 年間の選定が決定した「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」としての活動を含め、「春秋座としての特色ある公演」「教育研究に資する公演」「広く社会に訴求する公演」を 3 本の柱とし、その環境を活かした研究活動を行なっている。

### ・日本庭園・歴史遺産庭園研究センター

日本庭園・歴史遺産研究センターの日本庭園研究部門では『大学との連携による未指定文化財庭園の調査(京都市)』ほか 18 事業及び 1 公開講座(単年度総受託費:40 百万円)、歴史遺産研究部門では『国立民族学博物館「標本資料の材質・状態調査」』など 4 事業及び 3 公開講座(単年度総受託費:3.4 百万円)となった。

### ・ものづくり総合研究センターおよびプロジェクトセンター

ものづくり総合研究センター(美術工芸・空間演出デザイン・情報デザイン・環境デザイン・総合イベント各部門)及びプロジェクトセンターでは、33 件、46 百万円の受託案件(一部助成を含む)を実施。主な受託事業として、二条城ライトアップ、GUCCI ジャパンによる京都とイタリアの職人を紹介する展覧会イベント、アパレル大手の(株)ワールドのウィンドウディスプレイデザインと子供向けワークショップイベント、藤井大丸ディスプレイ、などの空間演出デザインその他、複数年取り組んでいる大山崎町でのアートイベント事業、栗田神社などの地域活性化事業のほか、京都府立医大とのホスピタルアート企画、進々堂 100 周年記念イベント制作、工業用ゴム製品メーカーや関西国際空港との商品開発など、

小口ではあるがデザイン案件も増え、クライアントの幅が広がった。案件の数は、震災をはじめとする昨今の経済状況からくる企業の経営悪化等の影響も懸念されたが、昨年度より2件の微増となったが、受託事業収入としては、大型案件が増えたため、約60%増となった。

- ・京都文藝復興倶楽部

京都文藝復興倶楽部では、京の職人技術を活用し新商品に展開し、世界に向けて発信している30代のグループと京都造形芸術大学の学生、会員企業が膝を突き合わせて話せる「新たなものづくりの戦略を目指す」座談会を10月15日に開催した。また、3月11日にも「地(知)の上に立つものづくり」座談会を開催し会員企業間の交流を図った。

## 7. その他大学附置機関からの芸術活動発信

- ・京都芸術劇場

平成23年度、京都芸術劇場「春秋座」では、大学主催、舞台芸術研究センター主催、その他外部使用を含む58の公演・シンポジウムが行われ、延べ19,653名の来場者となった。その他、授業使用が57日、大学行事使用が39日、公演の仕込み・稽古使用が66日あり、高い稼働率を維持している。また学生がフロントスタッフや搬入・搬出のアルバイトで参加し、研修の場としても積極的に活用されている。またstudio21では、卒業制作公演5本、授業発表4本、その他企画7本に3,709名の来場者があり、このほか、授業での積極活用が続いている。

- ・康耀堂美術館

康耀堂美術館では4回の常設展を開催するとともに、開館10周年記念イベント、コンサートや親子で参加するワークショップ等計6回のイベントを実施した。そのほか茅野市教育委員会、公民館との連携による、小中学生を対象とした体験授業の実施及び制作作品の展示。近隣の小学校と連携した児童作品の展示、鑑賞授業の実施等により、児童及び保護者の来館にも繋がり、前年度を6%上回る5,587名の来館者を迎えることができた。引き続き地域、周辺施設及び教育機関との連携、交流を深め、地域に根差した活動の展開を目指すとともに、学生の制作成果発表を広げる場としての活用のほか、大学との連携強化に向けた取り組みに力を入れるべく準備を進めている。

- ・芸術館

平成23年8月にギャラリーAubeへの芸術館移設が完了し、継続して博物館相当施設の認定を受けた。展覧会事業として『芸術館静かに再スタート コレクション展 I』を前期11月14日—12月17日、1月10日—2月10日の会期で実施し、総入館者数が592

名となった。

夏季休館中には教員免許状更新講習、通信教育部博物館学芸員課程スクーリング、通信・通学博物館実習Ⅱ、学生作品展(キャラクターデザイン学科)を実施した。

#### ・ギャラリーAube

平成23年度ギャラリー・オーブでは、学生・教員の作品展のほか、国内外の作家・アーティストの展覧会やジャーナリズム写真展など、13の展覧会を企画・開催し、7,647名の来場者となった。また、展覧会の企画から運営までを通して学ぶ授業を実施し、通学・通信教育両学部における実践型教育プログラムの中核としての役割を担った。

また、プロジェクトと連携した全学的な展覧会も開催し、幅広い層にアプローチするなど、学内外に広く開かれたギャラリーとして活動を行った。

#### ・芸術文化情報センター

開館日数は312日、年間利用者数138,448名(内在学生は延べ114,762名)であった。全体の利用者数は前年比10.1%減となったが、平成22年度後期より取り組んでいた、1,2年生の利用促進が奏功し、この学年については入館者数、貸出件数ともに増加に転じた。教育課程あるいは学園の動向に即した展示企画、推薦図書コーナーを充実させたことが一因と考えられる。なお、減じた利用者数の9割を占めるのは日本語学校生の利用であるが、これはグループ学習スペースとして同校のラウンジ利用を促進した結果である。

#### ・瓜生山エクステンションセンター

73講座に対して、延べ1,620名が受講し、24百万円の収入となった。また、これとは別に22年度に引き続き「臨床美術士資格講座」及び「臨床美術士研修会」を開講し、11講座に対して延べ185名が受講した。

# ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

【2007 ～ 2010年度の入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース
			クリエイティブ・ライティングコース
		歴史遺産学科	文化遺産コース
			文化財保存修復コース
		映画学科	映画監督コース
			映画技術コース
			プロデュースコース
			映画俳優コース
		舞台芸術学科	舞台芸術コース
			演技演出コース
			ダンスコース
			舞台デザインコース
		美術工芸学科	日本画コース
			洋画コース
			立体造形コース
			陶芸コース
		染織テキスタイルコース	染織テキスタイルコース
		こども芸術学科	こども芸術コース
		キャラクターデザイン学科	アニメディレクションコース
			キャラクターデザインコース
			CGデザインコース
		情報デザイン学科	コミュニケーションデザインコース
			イラストレーションコース
			映像メディアコース
			プランニングディレクションコース
先端アートコース			
空間演出デザイン学科	空間デザインコース		
	ファッションデザインコース		
	プロダクトデザインコース		
環境デザイン学科	環境デザインコース		
	建築デザインコース		
	インテリアデザインコース		
	ランドスケープデザインコース		

# ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

## 【2011年度からの入学者】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	芸術学部	美術工芸学科	日本画コース
			油画コース
			染織テキスタイルコース
			現代美術コース
			総合造形コース
			写真コース
		マンガ学科	マンガコース
		キャラクターデザイン学科	アニメディレクションコース
			キャラクターデザインコース
			CGデザインコース
		情報デザイン学科	コミュニケーションデザインコース
			イラストレーションコース
			映像メディアコース
			先端表現デザインコース
		プロダクトデザイン学科	生産デザインコース
			くらしプロダクトコース
		空間演出デザイン学科	空間デザインコース
			ファッションデザインコース
			ジュエリー&アクセサリーコース
		環境デザイン学科	建築コース
			インテリアデザインコース
			ランドスケープデザインコース
		映画学科	映画監督コース
			映画技術コース
			プロデュースコース
			映画俳優コース
		舞台芸術学科	演技演出コース
			舞台デザインコース
			ダンスコース
		文芸表現学科	クリエイティブ・ライティングコース
芸術表現・アートプロデュース学科	芸術表現・アートプロデュースコース		
こども芸術学科	こども芸術コース		
歴史遺産学科	文化財保存修復コース		
	文化遺産コース		

# ① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

## 【通信教育部及び大学院】

大学等	学部・研究科等	学科・専攻等	コース・領域等
京都造形芸術大学	通信教育部芸術学部	芸術学科	芸術学コース
			歴史遺産コース
			文芸コース
			和の伝統文化コース
		美術科	日本画コース
			洋画コース
			陶芸コース
			染織コース
			写真コース
			アニメーションコース
		デザイン科	情報デザインコース
			建築デザインコース
			ランドスケープデザインコース
	空間演出デザインコース		
	芸術研究科	芸術専攻（博士後期課程）	
		芸術文化研究専攻（修士課程）	
芸術表現専攻（修士課程）			
芸術研究科（通信教育）	芸術環境専攻（修士課程）	芸術環境研究領域	
		美術・工芸領域	
		環境デザイン領域	

## ② 教員組織及び教員の保有学位、業績に関する情報

下記リンク先に記載

<http://www.kyoto-art.ac.jp/>

### ③ 学生に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 者数	編入学者数		収容 定員	入学 定員	編入学定員		在学 者数	在 籍 学 生 数				編入学 生数 (内数)	男女比率 男：女	卒業者数		進学 者数	就職 者数	備考
			2年次	3年次			2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	4年次			9月卒業	3月卒業			
										学生数	学生数	学生数	学生数							
芸術学部	美術工芸学科	166	3	/	589	145	1	-	323	170	153	/	/	3	2:8	/	/	/	/	2011年度入学生からの課程
	マンガ学科	47	0	/	91	45	1	-	97	47	50	/	/	0	4:6	/	/	/	/	
	キャラクターデザイン学科	67	0	/	209	50	1	-	125	67	58	/	/	0	3:7	/	/	/	/	
	情報デザイン学科	133	2	/	485	115	1	-	260	138	122	/	/	2	2:8	/	/	/	/	
	プロダクトデザイン学科	48	1	/	81	40	1	-	90	50	40	/	/	1	5:5	/	/	/	/	
	空間演出デザイン学科	62	1	/	273	50	1	-	115	62	53	/	/	1	2:8	/	/	/	/	
	環境デザイン学科	58	2	/	233	45	1	-	118	58	60	/	/	2	5:5	/	/	/	/	
	映画学科	78	0	/	269	65	1	-	159	79	80	/	/	0	6:4	/	/	/	/	
	舞台芸術学科	44	0	/	149	35	1	-	89	44	45	/	/	0	2:8	/	/	/	/	
	文芸表現学科	44	0	/	48	24	0	-	85	45	40	/	/	0	4:6	/	/	/	/	
	芸術表現 ・アートプロデュース学科	35	0	/	120	20	0	-	52	35	17	/	/	0	2:8	/	/	/	/	
	こども芸術学科	30	0	/	129	30	1	-	58	31	27	/	/	0	2:8	/	/	/	/	
	歴史遺産学科	40	0	/	139	30	0	-	74	40	34	/	/	0	1:9	/	/	/	/	
	芸術表現 ・アートプロデュース学科	-	/	1	-	-	0	5	89	-	14	40	35	2	4:6	-	44	2	22	2007～2010年度入学生の課程 (2年次編入学は2011年度、3年 次編入学は2012年度まで受け入 れ)
	歴史遺産学科	-	/	3	-	-	2	2	90	-	3	41	46	6	2:8	-	32	7	21	
	映画学科	-	/	1	-	-	2	2	161	-	2	77	82	2	6:4	2	54	9	31	
	舞台芸術学科	-	/	0	-	-	2	2	78	-	2	35	41	0	3:7	-	28	2	16	
	美術工芸学科	-	/	2	-	-	2	2	319	1	7	162	149	10	2:8	2	155	35	82	
	こども芸術学科	-	/	0	-	-	2	2	62	-	0	35	27	1	1:9	-	30	0	21	
キャラクターデザイン学科	-	/	0	-	-	2	2	103	-	8	51	44	0	2:8	1	46	3	33		
情報デザイン学科	-	/	4	-	-	4	8	262	-	7	124	131	13	2:8	-	112	7	61		
空間演出デザイン学科	-	/	4	-	-	2	4	198	-	2	102	94	8	2:8	-	89	5	55		
環境デザイン学科	-	/	5	-	-	2	4	125	-	1	55	69	7	5:5	-	70	10	48		

### ③ 学生に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 者数	編入学者数		収容 定員	入学 定員	編入学定員		在学 者数	在 籍 学 生 数				編入学 生数 (内数)	男女比率 男：女	卒業者数		進学 者数	就職 者数	備 考
			2年次	3年次			2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	4年次			9月卒業	3月卒業			
			学生数	学生数			学生数	学生数		学生数	学生数	学生数	学生数							
	芸術表現 ・アートプロデュース学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	2006年度入学生までの課程 (在籍は留年生のみ)	
	歴史遺産学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0		
	映像・舞台芸術学科	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	0	0:10	0	0	0	0		
	美術工芸学科	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	0	0:10	0	0	0	0		
	情報デザイン学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1	0		
	空間演出デザイン学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0		
	環境デザイン学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	0	0		
	芸術学部計	852	9	20	2,815	694	30	33	3,135	867	825	722	721	58	3:7	6	661	81		390
教員一人当たり学生数：18.55人 収容定員充足率：111.37% 社会人学生数：社会人入学試験制度は実施していない																				
芸 術 学 部	<p>【アドミッション・ポリシー：求める学生像および入学者選抜の基本方針】</p> <p>本学は「芸術的創造と哲学的思索によって良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造」という建学理念を掲げて設立された。この建学の理念から導かれる教育目標を「芸術を社会に活かすことのできる人材の育成」としている。芸術教育は、ともすれば自己表現の達成に重点が置かれがちであるが、社会で通用する人材として活動していくためには、専門的な能力以上に、社会人として求められる基礎力、人間力を身につける必要がある。そのため1.芸術によって社会に貢献しようとする高い志と意欲を持ち、2.自立した一人の人間として、3.他者と協調・協働しながら、4.芸術的創造活動展開できる力を養うことをめざし、学生への徹底をはかっている。</p> <p>アドミッション・ポリシーの基本は、このことを実践できる基本的素養を備えた学生を受け入れることにあり、「芸術を学ぶ意欲と社会貢献をめざす高い使命感をもった学生の受け入れ」をアドミッション・ポリシーとして定めた。そのため、表現技術の優劣だけにとらわれず、評価基準の異なる複数の入学試験を実施して多様な学生を選抜している。</p>																			
	<p>【2013年度入学試験受け入れ方針】</p> <p>〈夏期コミュニケーション入学・秋期コミュニケーション入学〉</p> <p>1. 京都造形芸術大学で自分の可能性を伸ばす意欲のある人 2. あらゆる役割の中でクラスの中心となり引っ張っていける人 3. 常に向上心を持ち、何事にも積極的に取り組むことのできる人 4. 他者の意見にも耳を傾け、良好なコミュニケーションをとることができる人 5. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p> <p>〈公募制推薦入学試験・一般入学試験・体験授業型一般入学試験〉</p> <p>1. 京都造形芸術大学で学ぶに必要な基礎的な知識・技術を持った人 2. 知識・技術を習得するために努力してきた人 3. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p> <p>〈大学入試センター試験利用入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）〉</p> <p>1. 基礎教養を持ち、学力の高い人 2. 勉学に積極的に取り組んできた人 3. これまでの生活（高校生活など）をしっかりと生きてきた人</p>																			
	<p>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】</p> <p>Happy Elements株式会社、Rathio、S.E.I株式会社、アッシュ・ペー・フランス株式会社、株式会社杉田印刷、株式会社スペース、株式会社トーセ、学校法人瓜生山学園、積水ハウス株式会社、フジッコ株式会社、株式会社ワールドコーポレーション、株式会社オンリー 他</p>																			

### ③ 学生に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学 者数	編入学者数		収容 定員	入学 定員	編入学定員		在学 者数	在 籍 学 生 数				編入学 生数 (内数)	男女比率 男：女	卒業者数		進学 者数	就職 者数	備考
			2年次	3年次			2年次	3年次		1年次	2年次	3年次	4年次			9月卒業	3月卒業			
			学生数	学生数			学生数	学生数		学生数	学生数	学生数	学生数							
通信教育部 芸術学部	芸術学科	111	2	230	950	140	50	120	1,345	111	84	317	833	770	2：8	/	118	—	—	9月卒業は導入していない
	美術科	158	206	15	1,820	300	200	10	1,821	158	321	286	1,056	861	3：7		193	—	—	
	デザイン科	142	9	354	1,780	210	300	20	2,092	142	140	487	1,323	1,246	4：6		131	—	—	
	通信教育部 芸術学部計	411	217	599	4,550	650	550	150	5,258	411	545	1,090	3,212	2,877	3：7		442	—	—	
教員一人当たり学生数：125.19人 収容定員充足率：115.56% 社会人学生数：社会人入学試験制度は実施していない																				
<b>【入学に関する基本的な方針】</b> <芸術学科>文化芸術という行為に 関心を持ち、それぞれの生きる場でありながら他者と協力して問題を考えていく人の入学を期待しています。 <美術科>美術工芸の各専門分野に関心があり、地域、年齢、職業を超えた交流を積極的に推進する人材を求めます。 <デザイン科>ものづくりやデザインに関心を持ち、柔軟な思考で未来を切り開く意欲のある人の入学を期待しています。																				
<b>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】</b> 進路調査は行っていない。																				

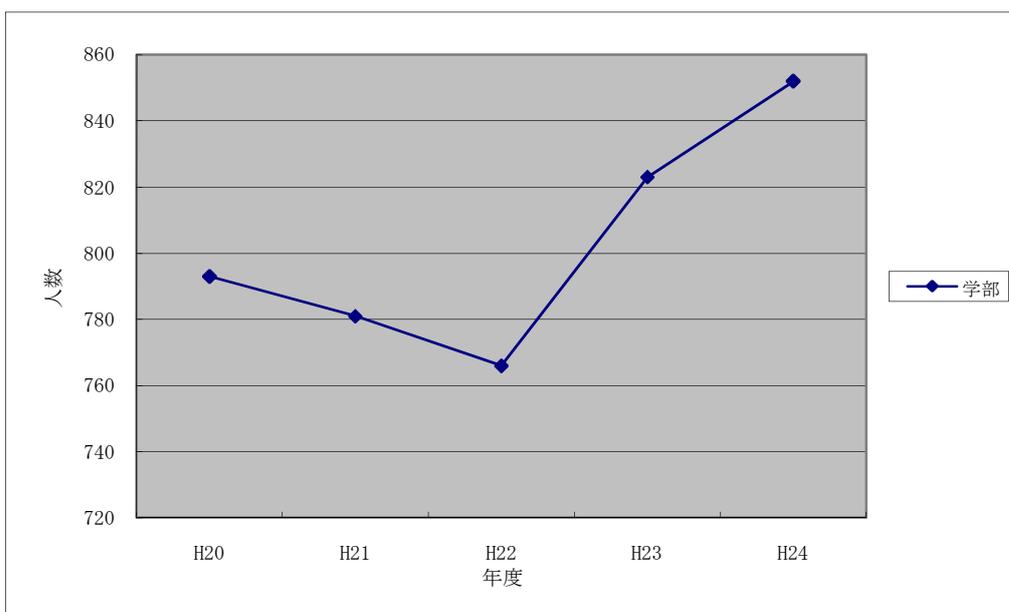
### ③ 学生に関する情報

大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

研究科	専攻	入学 者数	収容定員		入学定員		在学 者数	在籍学生数								男女比率 男：女	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	備考
			修士 課程	博士 課程	修士 課程	博士 課程		修士課程				博士課程								
								一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計					
	芸術文化研究専攻	15	24	—	12	—	25	23	0	2	25	—	—	—	—	2：8	10	1	3	学位授与数／10名 授与率 ／100%
	芸術表現専攻	60	96	—	48	—	123	89	0	34	123	—	—	—	—	3：7	55	3	19	学位授与数／55名 授与率 ／98%
	芸術専攻	6	—	21	—	7	17	—	—	—	—	11	0	6	17	5：5	5	1	3	学位授与数／5名 授与率 ／63%
	芸術研究科計	81	120	21	60	7	165	112	0	36	148	11	0	6	17	4：6	70	5	25	
教員一人当たり学生数：2.4人 収容定員充足率：117.2% 社会人学生数：36人																				
芸術 研究 科	<p>【入学に関する基本的な方針】</p> <p>博士課程</p> <p>(1) 専門領域における広範かつ深淵な知見を有し、かつ新たな価値観の構築にむけて真摯に取り組む姿勢を有していること。</p> <p>(2) 基本的には3年間で日本語による博士論文を完成させうる研究計画と遂行力を有していること。</p> <p>(3) 外国語（基本的に英語）による専門的語学力を有していること。</p> <p>修士課程（芸術文化研究専攻）</p> <p>(1) 豊かな感性と柔軟な思考を有し、基本的には2年間で修士論文を完成させうる研究能力を有していること。</p> <p>(2) 芸術文化に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な語学力（会話及び文章）を有していること。</p> <p>(3) 外国語（基本的に英語）の基本的な読解力・表現力を有していること。</p> <p>修士課程（芸術表現専攻）</p> <p>(1) 学士課程の基礎制作をふまえ、各自の表現領域を構築し、造形思想を深めるための能力を有していること。</p> <p>(2) 芸術表現に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な文書作成能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有していること。</p> <p>(3) 外国語（基本的に英語）の基本的な読解力・表現力を有していること。</p>																			
	<p>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】</p> <p>植彌加藤造園(株)、バングラデシュ大学、青森県上北地域県民局、滋賀県非常勤講師、(株)修美、大阪府非常勤講師、(株)枅儀、京彩色 中嶋、社会福祉法人京都身体障害者福祉センター、出雲千二(有)、学校法人瓜生山学園（京都造形芸術大学美術工芸学科）、SOU・SOU、(株)スペース、東州大学非常勤講師</p>																			

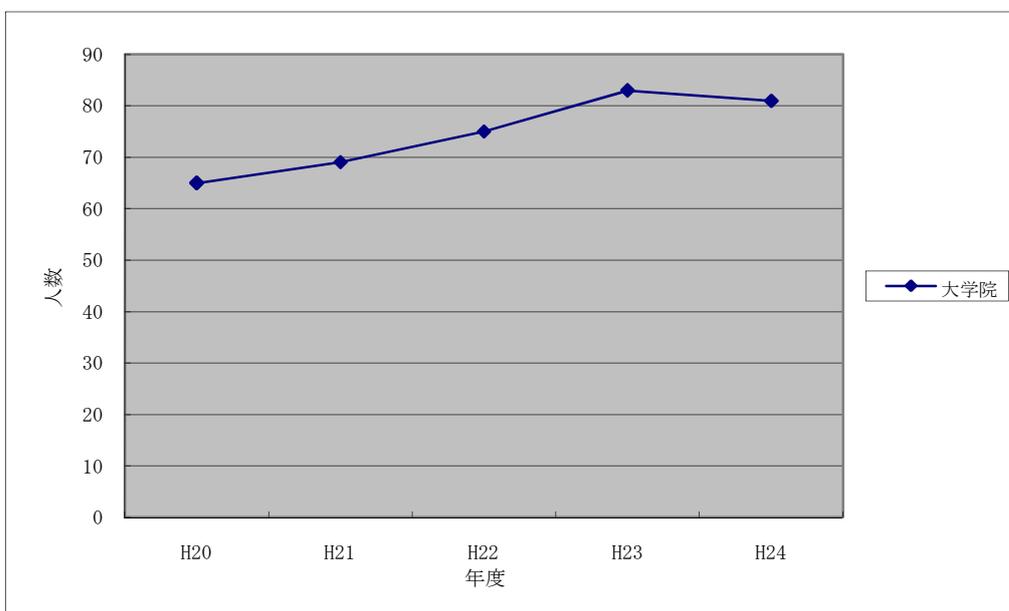
研究科	専攻	入学 者数	収容定員		入学定員		在学 者数	在籍学生数								男女比率 男：女	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	備考	
			修士 課程	博士 課程	修士 課程	博士 課程		修士課程				博士課程									
								一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計						
研究科	専攻	入学 者数	収容定員	博士 課程	修士 課程	博士 課程	在学 者数	在籍学生数								男女比率	卒業 者数	進学 者数	就職 者数	備考	
			修士 課程	博士 課程	修士 課程	博士 課程		一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	男：女					
芸術研究科 (通信教育)	芸術環境専攻 (修士課程)	80	160	—	80	—	172	172	—	—	172	—	—	—	—	4：6	59	—	—	学位授与数／59名 授与率／100%	
	芸術研究科 (通信教育)計	80	160	—	80	—	172	172	—	—	172	—	—	—	—	4：6	59	—	—		
	教員一人当たり学生数：19.11人 収容定員充足率：107.5%																				
	<p>【入学に関する基本的な方針】 文化芸術に関心を寄せ、さらに一み込んで文化芸術の当事者たらんとする意思を備えた人の入学を期待する。 1、専門分野の学びはもちん、人間・自・社会の事象についての学びをおそかにしない人。 2、ベーシックなトレーニングをいとわない人。 3、自分が生活する地域から学び、学びの成果を地域にしていこうとする人。</p>																				
<p>【卒業後の進路（主な就職分野〔具体的な就職先等〕）】 進路調査は行っていない。</p>																					

### 通学部入学者推移（5ヵ年）



(単位：人)

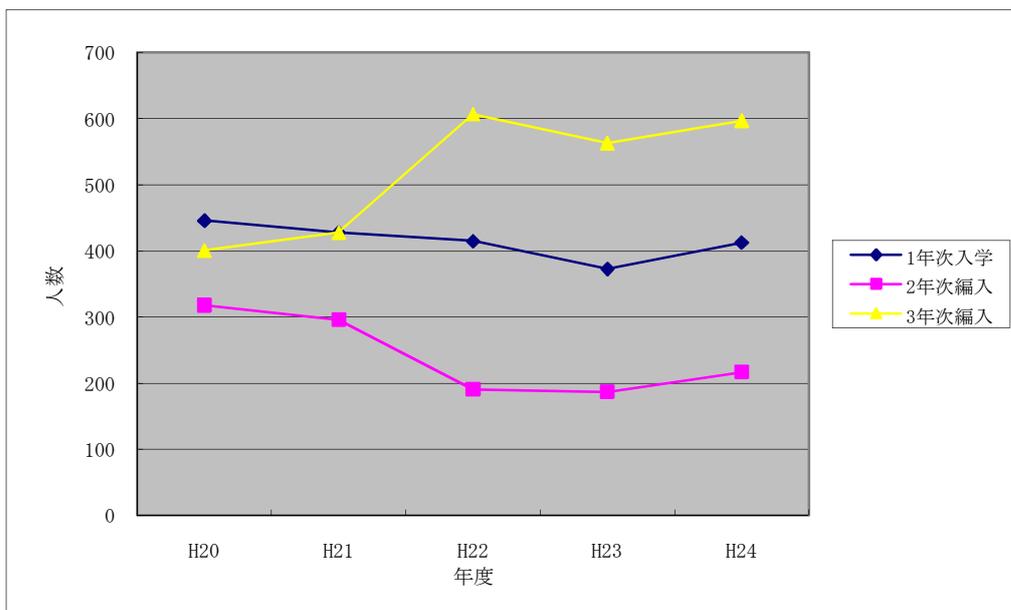
	H20	H21	H22	H23	H24
学部	793	781	766	823	852



(単位：人)

	H20	H21	H22	H23	H24
大学院	65	69	75	83	81

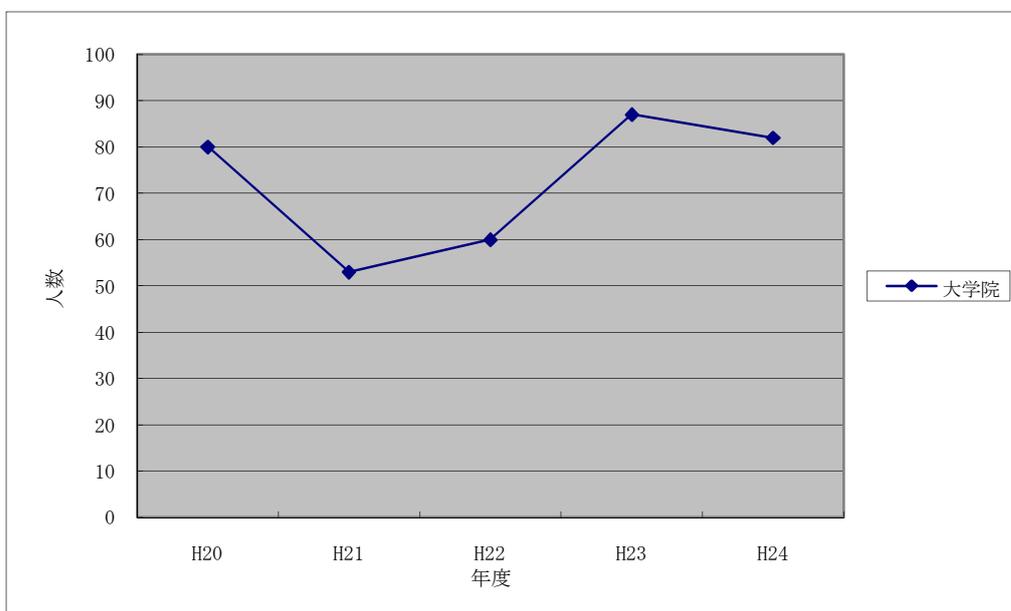
## 通信教育部 入学者推移 (5ヵ年)



(単位：人)

学部	H20	H21	H22	H23	H24
1年次入学	446	428	415	373	413
2年次編入	318	296	191	187	217
3年次編入	401	428	607	563	597

※ 入学確定者数のため、5月1日現在の学生数との間に差異が生じる場合があります。



(単位：人)

	H20	H21	H22	H23	H24
大学院	80	53	60	87	82

## ④ 教育課程に関する情報

### 【通学部】

在学生専用サイトに情報を掲載

<http://www.kyoto-art.ac.jp/student/teaching/syllabus.html>

### 【通信教育部】

電子シラバスとして一部をホームページ上で公開

[http://kirara.cyber.kyoto-art.ac.jp/syllabus\\_and\\_documents/syllabus\\_open/index.php](http://kirara.cyber.kyoto-art.ac.jp/syllabus_and_documents/syllabus_open/index.php)

## ⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関する情報

年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

### ■2011年度以降の入学生の要件

年間履修登録 単位数の上限	学部・ 学科 年次	芸術学部											
		美術工芸学科		マンガ学科		キャラクターデザイン学科		情報デザイン学科		プロダクトデザイン学科		空間演出デザイン学科	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	30単位	—	なし	—	なし	—	16単位	—	なし	「プロダクトデザイン 演習Ⅰ」を修得 済みであること。	なし	—
	3年次	60単位	—	46単位	—	なし	「キャラクターアニメーションⅠ」を修得 済みであること。	32単位	—	50単位	—	なし	「デザイン基礎 Ⅱ」を修得済み であること。
	4年次	90単位	—	90単位	—	90単位	「キャラクターアニメーションⅡ」を修得 済みであること。	90単位	—	90単位	—	90単位	—
卒業の要件 (単位数)		124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術教養科目 40単位以上、専門 科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上

年間履修登録 単位数の上限	学部・ 学科 年次	芸術学部													
		環境デザイン学科		映画学科		舞台芸術学科		文芸表現学科		芸術表現・アートパフォーマンス学科		こども芸術学科		歴史遺産学科	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	なし	「デザイン基礎 Ⅰ」「デザイン基礎 Ⅲ」を修得済 みであること。	なし	—	なし	「舞台表現基礎Ⅰ」 「舞台表現基礎Ⅱ」 を修得済みである こと。	なし	—	なし	—	20単位	専門科目20単位 以上修得済みで あること。	なし	—
	3年次	なし	「環境デザイン Ⅰ」「環境デザイン Ⅱ」「環境デザイ ンⅢ」を修得済 みであること。	46単位	—	なし	「舞台芸術Ⅱ」を修 得済みであること。	なし	「制作基礎Ⅰ」 「制作基礎Ⅱ」 「創作基礎Ⅰ」 「創作基礎Ⅱ」の うち1科目以上を 修得済みである こと。	54単位 但し、2年次 編入生は50 単位	1年次必修専門 科目を含むこと。 但し、2年次編入 の場合は上記要 件は適用されな い。	40単位	専門科目40単位 以上修得済みで あること。	48単位	必修専門 科目1科目 を含むこ と。
	4年次	90単位	「環境計画Ⅰ」 「環境計画Ⅱ」 「環境計画Ⅲ」を 修得済みである こと。	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—
卒業の要件 (単位数)		124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目68 単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術教養科目 40単位以上、専門 科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術教養 科目40単位以上、 専門科目60 単位以上	124単位	うち、芸術 教養科目 40単位以上、 専門科目 60単位以上

## ⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関する情報

年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

■2007～2010年度入学生の実要件(2007年度入学生は、4年次単位数のみの進級要件を設定)

学部・学科 年次	芸術学部											
	芸術表現・7・アート・デザイン学科		歴史遺産学科		映画学科		舞台芸術学科		美術工芸学科			
	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄		
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	
進級の要件 (単位数)	2年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	「舞台表現基礎Ⅰ」「舞台表現基礎Ⅱ」を修得済みであること。	30単位	「美術基礎ⅠⅡⅢⅣ」のうち12単位以上を含むこと。	
	3年次	54単位	1年次必修専門科目を含むこと。但し、2年次編入の場合は上記要件は適用されない。	48単位	必修専門科目1科目を含むこと。	46単位	—	なし	「舞台芸術Ⅱ」を修得済みであること。	62単位	「美術基礎ⅠⅡⅢⅣ」と他の専門科目の合計24単位以上を含むこと。但し、2年次編入の場合は専門科目の合計16単位以上を含むこと。	
	4年次	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—	90単位	—	
卒業の要件 (単位数)	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上

学部・学科 年次	芸術学部												
	子ども芸術学科		キャラクターデザイン学科		情報デザイン学科		空間演出デザイン学科		環境デザイン学科				
	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄	2009・2010年度生		2007・2008年度生		
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	20単位	専門科目20単位以上修得済みであること。	なし	—	16単位	1年次必修専門科目を含んで、専門科目合計16単位以上修得済みであること。	なし	—	なし	「デザイン基礎Ⅰ」「デザイン基礎Ⅲ」を修得済みであること。	—	「デザイン基礎Ⅰ」「デザイン基礎Ⅱ」「測量演習」を修得済みであること。
	3年次	40単位	専門科目40単位以上修得済みであること。	なし	「CG技法Ⅰ」「CG技法Ⅱ」を修得済みであること。	32単位	2年次必修専門科目を含んで、専門科目合計32単位以上修得済みであること。但し、2年次編入生は2年次専門必修科目を含んで、専門科目合計16単位以上修得済みであること。	なし	「デザイン基礎Ⅱ」を修得済みであること。	なし	「環境デザインⅠ」「環境デザインⅡ」「環境デザインⅢ」を修得済みであること。	—	「環境デザインⅠ」「環境デザインⅡ」「環境デザインⅢ」を修得済みであること。
	4年次	90単位	—	90単位	「キャラクターアニメーションⅡ」を履修済みであること。但し、3年次編入生は上記要件を適用しない。	90単位	2年次編入生の場合は、3年次必修専門科目を含んで専門科目合計が32単位以上、3年次編入生の場合は3年次必修専門科目を含んで16単位以上修得済みであること。	90単位	—	90単位	「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」「環境計画Ⅲ」を修得済みであること。但し、2009年度2年次編入生及び2010年度3年次編入生は「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」を修得済みであること。	90単位	「環境計画Ⅰ」「環境計画Ⅱ」を修得済みであること。但し、2007年度入学生には上記要件は適用されない。
卒業の要件 (単位数)	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目60単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目68単位以上	124単位	うち、芸術教養科目40単位以上、専門科目65単位以上	

## ⑤ 学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関する情報

年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

	学部・学科 年次	芸術学部通信教育部					
		芸術学科		美術科		デザイン科	
		単位数	備考欄	単位数	備考欄	単位数	備考欄
年間履修登録単位数の上限	1～4年次	なし	—	なし	—	なし	—
進級の要件 (単位数)	2年次	なし	—	なし	—	なし	—
	3年次	なし	—	なし	—	なし	—
	4年次	90単位 [3年次編入生は32単位以上]	専門教育科目 (T科目:20単位以上 S科目:18単位以上) 「論文研究1.2」必修*1	90単位 [2年次編入学生は50単位以上]	学部共通専門教育科目:8単位以上 コース専門演習T科目:12単位以上 コース専門演習S科目:18単位以上	80単位(ランドスケープデザインコースは90単位以上) [3年次編入学生は36単位以上(建築デザインコースの3年次編入学生は40単位以上)]	学部共通専門教育科目:8単位以上(建築デザインコースは12単位以上)*2 コース専門演習T科目:16単位以上 コース専門演習S科目:12単位以上
卒業の要件 (単位数)		124単位 (S科目:30単位以上) [3年次編入生は62単位以上]	専門教育科目:60単位以上 (T科目:28単位以上、S科目:24単位以上) 「論文研究1.2」「卒業研究」必修*1	124単位 (S科目:30単位以上) [2年次編入学生は84単位以上]	学部共通専門教育科目:20単位以上 [2年次編入学生は12単位以上] 「造形基礎演習1.2」必修 コース専門演習T科目:16単位以上 コース専門演習S科目:24単位以上	124単位 (S科目:30単位以上) [3年次編入生は62単位以上(建築デザインコースの3年次編入生は70単位以上)]	学部共通専門教育科目:12単位以上(建築デザインコースは22単位以上)*3 コース専門演習T科目:24単位以上 コース専門演習S科目:24単位以上

\*1歴史遺産コースは上記に加え「京都学」「史料演習」必修

\*2: 建築デザインコースの新カリキュラム【2009年度(1年次入学)、2010年度(1年次入学、2年次編入学)】は、「住宅概論」「都市概論」「建築史1(近代)」「建築史2(西洋)または建築史3(日本)」「建築環境工学」「建築材料」「建築設備」「建築生産」「建築法規」「構造力学1・2」の12単位選択必修。旧カリキュラムは「デザイン論」「建築計画論2」「建築史」「構造力学1・2」「建築材料・構法」「環境の保全と計画」の12単位選択必修。

ランドスケープデザインコースは、「環境の保全と計画」必修、「都市概論」、「建築史1」、「建築史2」、「建築材料」、「造園史」、「ランドスケープデザイン原論」から4単位選択必修  
空間演出デザインコースの新カリキュラム【2010年度以降の全入学生】は、「マーケティング論」「インテリア計画論1」「生活空間デザイン史」が必修。旧カリキュラム「マーケティング論」「建築計画論1」が必修。

\*3: 建築デザインコースの新カリキュラム【2009年度(1年次入学)、2010年度(1年次入学、2年次編入学)】は、「住宅概論」「都市概論」「建築史1(近代)」「建築史2(西洋)または建築史3(日本)」「建築環境工学」「建築材料」「建築設備」「建築生産」「建築法規」「構造力学1・2」が必修。旧カリキュラムは「デザイン論」「建築計画論2」「建築史」「構造力学1・2」「建築材料・構法」「環境の保全と計画」が必修。

ランドスケープデザインコースは、「環境の保全と計画」必修、「都市概論」、「建築史1」、「建築史2」、「建築材料」、「造園史」、「ランドスケープデザイン原論」から8単位選択必修  
空間演出デザインコースの新カリキュラム【2010年度以降の全入学生】は、「マーケティング論」「インテリア計画論1」「生活空間デザイン史」「インテリア計画論2」「空間構成材料」が必修。旧カリキュラムは、「マーケティング論」「建築計画論1」「空間論」が必修。

## ⑥ 学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科	所在地	主な交通手段	
京都造形芸術大学	瓜生山キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川瓜生山2-116	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約15分 京都市バス 上終町京都造形芸術大学前 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 敷地面積が約66,000㎡で正面が幹線道路に面し、水景を配した大階段と柱を配したファサードで、開放的なビロティを有するキャンパスとなっている。			
		【運動施設の概要】 瓜生山キャンパスから約4Km北に位置する敷地面積、約18,500㎡の岩倉グラウンドと、体育館は瓜生山キャンパス内に広さ約980㎡で、バスケットコート2面、バレーボールコート2面を有している。			
	上終キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川上終町7-1	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約15分 京都市バス 上終町京都造形芸術大学前 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 瓜生山キャンパスと幹線道路を挟んだ向かい側にあり、敷地面積は546㎡で2棟の校舎があるキャンパスとなっている。			
		【運動施設の概要】 運動施設は有していない。			
	高原キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	京都市左京区北白川高原町25	叡山電鉄 茶山駅下車 徒歩約5分 京都市バス 高原町 下車すぐ	
		【キャンパスの概要】 瓜生山キャンパスから西方に約500mはなれた場所に位置し、敷地面積は約1,900㎡で4棟の建物は専用の撮影スタジオを備える映画学科の施設である。			
		【運動施設の概要】 運動施設は有していない。			
	キャンパスマップ		<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/campusmap.html">http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/campusmap.html</a>		
アクセスマップ		<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/other/access.html">http://www.kyoto-art.ac.jp/other/access.html</a>			
外苑キャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	東京都港区北青山1-7-15	JR総武線 信濃町駅下車 徒歩約5分 東京メトロ 青山一丁目 徒歩約8分		
	【キャンパスの概要】 明治神宮外苑の一角に位置しており、都心でありながら木々に囲まれた非常に恵まれた学習環境となっている。				
	【運動施設の概要】 運動施設は有していない。				
アクセスマップ		<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/other/access02.html">http://www.kyoto-art.ac.jp/other/access02.html</a>			
大阪サテライトキャンパス	芸術学部 通信教育部芸術学部 芸術研究科 芸術研究科(通信教育部)	大阪府北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階	地下鉄御堂筋線・阪神「梅田駅」より 徒歩3分 地下鉄谷町線「東梅田駅」より 徒歩3分 JR「大阪駅」より 徒歩5分 阪急「梅田駅」より 徒歩5分		
	【キャンパスの概要】 大阪市内の中心に位置し、交通の便にも恵まれた立地環境にある。				
	【運動施設の概要】 運動施設は有していない。				
		<a href="http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access03.html">http://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/access03.html</a>			
【課外活動の状況】 30の団体がクラブ連盟に登録している(体育系10、文科系20)。活動日および活動場所は団体ごとに設定されており、主にクラブボックス(有終館)、教室、講堂、グラウンド等で活動している。活動頻度は週1~2回のところが多い。					

## ⑦ 学生納付金に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

学部	学 科	入学金		授業料		施設費		その他の費用徴収		備考
		金額	納入期限	金額	納入期限	金額	納入期限	金額	納入期限	
芸術学部	美術工芸学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学金及び、その他の費用徴収のうち学生保険料(4,660円)については初年度のみ。</li> <li>・授業料、施設費は一括納入の場合の期日。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。(※入試制度ごとの細かな設定日があるため、1年次の一括して最も遅い期日を記入)</li> <li>・2年次以降は3月20日が納入期限。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。</li> </ul> <p>【授業料減免制度の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■減免対象の種類・要件</li> </ul> <p>学費減免制度として、1人20万円を60名に、10万円を20名に給付。学力基準、家計基準を満たした希望者のうち、困窮度の高い学生から採用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■必要手続等</li> </ul> <p>9月中旬願書配布、10月初旬提出締切。教学事務室窓口で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。</p>
	マンガ学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	キャラクターデザイン学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	350,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	情報デザイン学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	プロダクトデザイン学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	空間演出デザイン学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	環境デザイン学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	映画学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	舞台芸術学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	文芸表現学科	200,000円	2012.3.21	1,050,000円	2012.3.21	100,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	芸術表現・アートプロデュース学科	200,000円	2012.3.21	1,050,000円	2012.3.21	100,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
	こども芸術学科	200,000円	2012.3.21	1,320,000円	2012.3.21	300,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21	
歴史遺産学科	200,000円	2012.3.21	1,050,000円	2012.3.21	100,000円	2012.3.21	19,660円	2012.3.21		
歴史遺産学科 文化財保存修復コース 3、4年次のみ	—	—	1,050,000円	2012.3.21	200,000円	2012.3.21	15,000円	2012.3.21		
通信教育部	芸術学科	30,000円	2012.4.13	231,000円	2012.4.13	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園卒業生は入学金を免除。</li> <li>・入学金については初年度のみ。</li> <li>・2年次以降の授業料については2月末が納入期限。</li> <li>・スクーリング受講料、単位修得試験料は、受講・受験許可後に別途口座引落。</li> </ul> <p>【授業料減免制度の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■減免対象の種類・要件</li> </ul> <p>学習が通算5年目以上となる場合に授業料を3割減免。</p> <p>年限退学時再入学者・卒業後再度入学者について授業料を3割減免。</p>
	美術科（日本画・洋画）	30,000円	2012.4.13	277,000円	2012.4.13	—	—	—	—	
	美術科（陶芸・染織）	30,000円	2012.4.13	300,000円	2012.4.13	—	—	—	—	
	美術科 （写真・アニメーション）	30,000円	2012.4.13	323,000円	2012.4.13	—	—	—	—	
	デザイン科	30,000円	2012.4.13	323,000円	2012.4.13	—	—	—	—	

## ⑦ 学生納付金に関する情報

学部・学科の学生定員及び在籍学生数

研究科	専攻	入学金		授業料		施設費		その他の費用徴収		備考
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期	
芸術研究科	芸術文化研究専攻	200,000円	前期日程 2011.11.4 後期B日程 2012.3.9	927,000円	前期日程 2011.11.4 後期B日程 2012.3.9	150,000円	前期日程 2011.11.4 後期B日程 2012.3.9	1,750円	前期日程 2011.11.4 後期B日程 2012.3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学通学部卒業生および外国人留学生は入学金を免除。</li> <li>・本学通信教育部卒業生は入学金を減免。</li> <li>・入学金については初年度のみ。</li> <li>・授業料、施設費は一括納入の場合の期日。前期・後期分納の場合、半期分を納入した上で、残額を9月20日までに納入すること。</li> </ul>
	芸術表現専攻	200,000円	前期日程 2011.11.4 後期A日程 2012.1.6	927,000円	前期日程 2011.11.4 後期A日程 2012.1.6	300,000円	前期日程 2011.11.4 後期A日程 2012.1.6	1,750円	前期日程 2011.11.4 後期A日程 2012.1.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>【授業料減免制度について】</li> <li>・留学生奨学金(若干名)</li> <li>他の奨学金を受給していない外国人留学生が対象。2年次に前年度の成績などにより選抜。</li> <li>■特待生制度</li> <li>修士課程：年間授業料の半額を免除する。</li> <li>《1年次(2名程度)》</li> <li>前期日程入学試験出願者のうち、特待生制度の志望者を対象とする。採用期間は2年間。(1年次の就学状況や成績等が芳しくない場合は、2年目の継続を取り消す場合がある)</li> <li>《2年次(2名程度)》</li> <li>入学時に特待生に選抜されていない在籍生対象。2年次への進級後、前年度の成績等により総合的に判断。</li> </ul>
	芸術専攻	200,000円	2012.3.9	927,000円	2012.3.9	150,000円	2012.3.9	2,600円	2012.3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>博士課程：授業料全額免除(各学年1名程度)</li> <li>対象者は在籍者全員。1年次は入学試験の成績、2年次以降は前年度の成績などにより選抜。</li> </ul>
(芸術研究科) 通信教育科	芸術環境専攻 (修士課程)	100,000円	2012.3.22	750,000円	2012.3.22	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目のスクーリング受講料は授業料に含む。</li> <li>・本学園卒業生は入学金を免除。</li> <li>・入学金については初年度のみ。</li> <li>・2年次以降の授業料については2月末が納入期限。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>【授業料減免制度の概要】</li> <li>■減免対象の種類・要件</li> <li>学習が通算3年目以上となる場合に授業料を3割減免。</li> <li>年限退学時再入学者・内部進学制度適用者について授業料を3割減免。</li> </ul>

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

芸術学部・芸術研究科

	組織名	機能	年間相談件数		
			平成21年度	平成22年度	平成23年度
学生への保健・衛生対応	保健センター	《機能》 学生一人ひとりが、自己の健康管理に関心を持ち、豊かな学生生活を送ることができるよう、健康支援を行なう。 《スタッフ、対応時間》 専任看護師1名、保健師1名 非常勤5名(医師1名－毎週月曜日、看護師4名－土曜・日曜・祝日交代勤務) 9:00～18:00(月～金曜日) 10:00～18:30(土曜日) 10:00～18:30(日曜・祝日)	6,176	6,050	6,520
カウンセリング等の面談、メンタルヘルス相談	学生相談室	《機能》 日常生活の中で起こる様々な悩みや問題について共に考え、解決するための相談を行なう。 《スタッフ、対応時間》 専任カウンセラー1名 非常勤1名(医師1名－毎週火曜日) 10:00～18:00(月～金曜日)	334	421	312
就職支援、進学支援	キャリアデザインセンター	《機能》 就職や進学について個別相談や個別指導を行うとともに、大学全体の学生支援策を立案する。求人や企業説明会について企業開拓を行うとともに、企業と学生とのコーディネートも行う。 《スタッフ、対応時間》 教員1名、専任職員4名 9:00～18:00(月～金曜日) 9:00～16:00(土曜日)	1,116	1,540	2,040

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

芸術学部・芸術研究科

	組織名	機能
履修支援	教学事務室 教学支援グループ	新入生ガイダンス、在学生ガイダンス、履修登録・履修中止、成績通知書配付、成績確認、履修相談、転学科・転コース相談、休学・退学・復学・復籍相談等を行っている。
生活支援	教学事務室 教学支援グループ	アルバイト募集の掲示と希望者への案内を行なっている。
経済支援	教学事務室 教学支援グループ	奨学金情報の掲示、採用説明会の実施、申込書類の取りまとめ、採否連絡、振込、返還等の各種手続きを行なっている。
留学生支援	留学生課	生活指導、学費納入、ビザ発給、各種伝達事項管理などの支援を行なっている。
障がいを持つ学生の支援	教学事務室教学支援グループ・ 保健センター	障がいの種類により、学生相談窓口(教学事務室教学支援グループ)、保健センター、学生相談室と所属学科の教職員が連携し、支援体制をとっている。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

学生支援組織

### 通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

	組織名	機能および具体的な支援体制
社会人入学生の支援	通信教育部 学務グループ	夏期スクーリング、冬期スクーリング期間中に、託児ルームを開設し1歳以上～未就学児を持つ学生の履修をサポートしている。利用者には一部経費負担も求めるが、運営に掛かる経費の90%以上は大学で負担し、便宜を図っている。
転籍学生への支援 (本学通学部から通信教育部 への異動希望者)	通信教育部 学務グループ	通学部から通信教育部への転籍を希望する学生の窓口となる事務職員をそれぞれに置き、希望学生やその保護者と個別対応。
障がいを持つ学生の支援	通信教育部 学務グループ	聴覚障がい者のみへの対応として、コース専門教育科目スクーリング受講時に、介助者(スクーリングアシスタント)をアテンドさせる(内容は講義ノートのまとめ補助。学生本人からの要望を基に、コース研究室が判断する)。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成24年度）※一部平成23年度実績数有

芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成24年度 採用人数	要件	申込方法
日本学生支援機構奨学金 第一種（自宅）	学外	貸与	52,921 （月額）	89 （平成24年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・5万4千円から選択。 学力基準 1年生 (1) 高等学校最終2か年又は専修学校高 等課程最終2か年の成績が3.5以上。 (2) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記(1)に 準ずると在学学校長から認められる者。 2年生以上 大学における学業成績が本人の属する学部（科）の上位1/3 以内の者。  家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第一種（自宅外）	学外	貸与	60,357 （月額）	168 （平成24年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・6万4千円から選択。 学力基準 1年生 (1) 高等学校最終2か年又は専修学校高 等課程最終2か年の成績が3.5以上。 (2) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記(1)に 準ずると在学学校長から認められる者。 2年生以上 大学における学業成績が本人の属する学部（科）の上位1/3 以内の者。  家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第二種	学外	貸与	80,880 （月額）	1125 （平成24年9 月現在総貸 与人数）	学部1～4年生対象 3万・5万・8万・10万・12万円から選択。 学力基準 (1) 出身学校又は大学における学業成績 が平均水準以上と認められる者。 (2) 特定の分野において特に優れた資質 能力を有すると認められる者。 (3) 大学における学修に意欲があり、学業 を確実に修了できる見込みがあると認 められる者。 (4) 高等学校卒業程度認定試験もしくは大 学入学資格検定合格者で、上記に準 ずると認められる者。  家計基準 家計の基準額は、世帯人員によって異なる。本人の父母又はこれに代って家計を支 えている人（主たる家計支持者一人）の収入金額が選考の対象。	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成24年度）※一部平成23年度実績数有

### 芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額 (月額)	平成24年度 採用人数 (平成24年9 月現在総貸 与人数)	要件	申込方法
日本学生支援機構奨学金 第一種	学外	貸与	74,286 (月額)	35 (平成24年9 月現在総貸 与人数)	<p>院生対象 修士5万・8万8千円、博士8万・12万2千円から選択。</p> <p>学力基準 大学等並びに大学院における成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができる者と認められる者。</p> <p>家計基準 本人の収入金額合計（配偶者がいる場合は、配偶者の収入を含む。ただし、定職収入がある場合が対象。）が収入基準額（修士：374万円、博士：425万円）以下が選考の対象となる。 定職収入が給与所得以外の場合は、収入金額から必要経費を控除した額となる。</p>	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
日本学生支援機構奨学金 第二種	学外	貸与	118,235 (月額)	17 (平成24年9 月現在総貸 与人数)	<p>院生対象 5万・8万・10万・13万・15万円から選択。</p> <p>学力基準 (ア) 大学等並びに大学院における成績が優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができる者と認められる者。 (イ) 大学院における学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者。</p> <p>家計基準 本人の収入金額合計（配偶者がいる場合は、配偶者の収入を含む。ただし、定職収入がある場合が対象。）が収入基準額（修士：536万円、博士：718万円）以下が選考の対象となる。 定職収入が給与所得以外の場合は、収入金額から必要経費を控除した額となる。</p>	4月にガイダンスを実施、4月下旬提出締切。 ガイダンスに出席し、申込書類を受取り、記入後教学事務室窓口へ提出。
学資奨学金	学内	貸与	216,000 (貸与額平均)	3	<p>学部1～4年生対象 4年間の就学期間中に年間学費の半額を上限に貸与する。</p> <p>学力基準 2年生以上の場合、標準的な単位数を修得していること。留年不可。（2年生：30単位以上、3年生：62単位、4年生：90単位以上）</p> <p>家計基準 家計を支える保護者の所得金額を基に、日本学生支援機構奨学金の算定方法を準用する。</p>	6月上旬願書配布、6月中旬提出締切。 教学事務室窓口で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。
学費減免	学内	給付	175,000 (給付額平均)	80 (平成23年 度実績)	<p>学部2～4年生対象 経済的困難度の高い上位80名を減免対象とする。 80名のうち、60名に対し1人20万円、20名に対し10万円給付する。</p> <p>学力基準 標準的な単位数を修得していること。留年不可。（2年生：30単位以上、3年生：62単位、4年生：90単位以上）</p> <p>家計基準 総務省家計調査・年間収入五分位階級別第Ⅰ階級以下であること。※父母年収（所得証明書における給与収入額）が433万円以下（自営業等は所得金額80万円以下）であること。共働きの場合は、父母二人の収入を合算。</p>	9月中旬願書配布、10月初旬提出締切。教学事務室窓口で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成24年度）※一部平成23年度実績数有

### 芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成24年度 採用人数	要件	申込方法
着山会奨学金	学内	貸与		0	学部4年生対象 年間学費の半額を上限に貸与する。 学力基準 当該年度に卒業が見込める単位数であること。  家計基準 家計を支える保護者の所得金額を基に、日本学生支援機構奨学金の算定方法を準用する。	教学事務室窓口で配布される申込用紙を受取り、記入後必要書類とともに提出。 (随時)
加藤定育英会奨学金	学外	給付	30,000 (月額)	2	学部3・4年生、院生対象  学業優秀、品行方正、就学に耐えうる健康体でありながら、経済的事由によって就学に支障をきたしている者。	7月末提出締切。 要件に該当する候補者を大学にて選出・選考し、推薦する。
佐藤国際文化育英財団奨学金	学外	給付	30,000 (月額)	2	学部、院共通対象  以下の条件を満たしている者。 (1) 日本画及び油画（版画を含む）を専攻中の者。 (2) 学業、人物ともに優秀であり、かつ健康である者。 (3) 学費の支弁が困難と認められる者。 (4) 例会など財団が指定する行事に毎回出席できる者。 (5) 年齢は原則として35歳未満の者。	4月末提出締切。 日本画・洋画コースより要件に該当する候補者を大学にて選出・選考し、推薦する。
香雪美術館奨学金	学外	給付	40,000 (月額)	1	学部1～4年生対象  兵庫県内の高校の卒業生（あるいは両親が同県内に在住する者）で、財団法人香雪美術館が指定する関西の大学、短期大学の美術、美術・芸術理論・美術史・文化財保存などを専修する学業優秀者。	4月初旬願書配布、4月末提出締切。 教学事務室窓口で願書を受取り、必要書類とともに提出。
あしなが育英会奨学金	学外	貸与	50,000 (月額)	1	学部1～4年生対象  保護者（父または母）が、病気や災害（道路における交通事故を除く）もしくは自死（自殺）などで死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の子供。 (注) 保護者が死亡したり後遺障害者になったときの子供の年齢が20歳以上の場合は奨学生の対象外。	5月末提出締切。教学事務室窓口で願書を受取り、必要書類とともに提出。
交通遺児育英会奨学金	学外	貸与	60,000 (月額)	1	学部、院共通対象  大学（短期退学も含む）および大学院に在籍している29才までの学生で、保護者等が道路上の交通事故で死亡したり、著しい後遺障害のために働けなくなった家庭の子女。	5月初旬願書配付、6月初旬応募締切。※学部のみ二次募集有。（11月上旬締切） 教学事務室窓口で願書配付。必要書類を準備後、直接本人が育英会へ提出。
中信育英会奨学金	学外	給付	20,000 (月額)	1	2年生対象 学業優秀、品行方正でありながら経済的事由により修学が困難な者。 留学生は除く。	3月末提出締切。教学事務室窓口で願書を受取り、記入後必要書類とともに窓口へ提出。応募者の中から推薦者1名を大学にて選考する。
特待生	学内	給付	463,500 (年間授業料半額)	5	院生（修士）対象 年間授業料の半額を免除。 1年生 学業・人物ともに優秀な学生。 2年生 学業・人物ともに優秀な学生であり、入学時に特待生に選抜されていない者。	1年生 出願者のうち志望者のみ対象。前期日程入学試験の結果を参考にして選考する。 2年生 5月頃に前年度の成績等を参考に総合的に判断し選考する。（手続不要）

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成24年度）※一部平成23年度実績数有

### 芸術学部・芸術研究科

奨学金の名称	学内 学外	給付 貸与	1人あたりの 平均支給額	平成24年度 採用人数	要件	申込方法
特待生	学内	給付	927,000 (年間授業料全額)	2	2 院生（博士）対象 年間授業料を全学免除。 学業・人物ともに優秀な学生。	1年生 入学試験の結果を参考にして選考する。（手続不要）  2年生以上 5月頃に前年度の成績等を参考に総合的に判断し選考する。（手続不要）
外国人留学生入学免除	学内	給付	200,000 (入学金全額)	24	大学院新入生対象 入学金を全額減免（※平成24年度入学生より制度改正）	申込不要
外国人留学生入学免除	学内	給付	200,000 (入学金全額)	37	学部新入生対象 入学金を全額減免（※平成24年度入学生より制度改正）	申込不要
外国人留学生奨学金	学内	給付	948,500 (2012年度学費全額)	1	1 私費留学・大学院生対象 2012年度学費（授業料・施設費）全額免除 以下の条件を満たしている者 (1) 本学大学院の正規課程に在籍する 外国人留学生であること (2) 2011年度（1年間）の成績を本学で取得していること （新入生、退学後1年以上経過した再入学生、休学後1年以上経過した復学生は除く） (3) 学業、人物ともに優れていること （文部科学省学習奨励費算定方法で成績係数2.3以上） (4) 文部科学省の国費、学習奨励費など、その他の奨学金を受給していないこと (5) 国民健康保険に加入し、保険料を滞納していないこと	4月応募書類提出。留学生課で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。
外国人留学生奨学金	学内	給付	53,000 (月額)	10	10 私費留学・学部生対象 以下の条件を満たしている者 (1) 本学芸術学部の正規課程に在籍する 外国人留学生であること (2) 2011年度（1年間）の成績を本学で取得していること （新入生、退学後1年以上経過した再入学生、休学後1年以上経過した復学生は除く） (3) 学業、人物ともに優れていること （文部科学省学習奨励費算定方法で成績評価係数2.3以上） (4) 文部科学省の国費、学習奨励費など、その他の奨学金を受給していないこと (5) 国民健康保険に加入し、保険料を滞納していないこと	4月応募書類提出。留学生課で配布される願書を受取り、記入後必要書類とともに提出。

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

課外活動への支援（平成23年度実績）

芸術学部のみ

活動支援の名称	学内・学外	給付・貸与	1件あたりの金額	平成23年度採用人数	要件	申込方法
優秀学生賞	学内	給付	100,000	26	3回生修了時点までの成績や研究制作実績を評価し、研究・制作活動に秀でた優秀な4回生を表彰する。1人あたり10万円を支給	申込不要
海外留学支援（留学） ※1	学内	給付	100,000	7	1人あたり10万円を支給	国際交流グループを通じて申請。（随時）
海外留学支援（語学学修） ※1	学内	給付	2,500又は5,000	18	TOEFL、IELTS受験補助として1人あたり2500円を支給。 又は、TOEFL講座受講料補助として1人あたり5000円を支給。	国際交流グループを通じて申請。（随時）
就職活動支援 ※1	学内	給付	5,000	366	1人あたり5000円を支給	キャリアデザインセンターを通じて申請。（随時）
創作・研究活動補助 ※1	学内	給付	上限なし	6	申請に基づき創作・研究活動に必要な額を精査し支給（上限なし）	6月上旬に説明会実施、6月末に申請締切。教学支援グループにて申請書を受け取り、計画書等と合わせて申請。
対外文化活動補助 ※1	学内	給付	上限50,000	45	1回の活動で最大5万円を支給	教学支援グループにて申請書を受け取り、DM等と合わせて申請。（随時）

※1…著山会（京都造形芸術大学保護者会）による支援

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成22年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

奨学金の名称	学内・学外	給付・貸与	1人あたりの月額平均支給額	平成23年度採用人数	要件	申込方法
学習支援奨学金（大学院）	学内	給付	18,750	5	学習が通算3年目以上となる場合に授業料を3割減免。	個別の申込不要。 授業料請求時に大学にて一括処理(授業料請求から奨学金分を減免する)。
学習支援奨学金 (学部：芸術学科)	学内	給付	5,775	214	同一コースでの学習が通算5年目以上となる場合に授業料を3割減免。 ただし、下記の年限退学時再入学奨学金受給者、卒業後再度入学奨学金受給者、併修生奨学金受給者への重複支給は行わない。	
学習支援奨学金 (学部：日本画・洋画)	学内	給付	6,925	220		
学習支援奨学金 (学部：陶芸・染織)	学内	給付	7,500	145		
学習支援奨学金 (学部：写真・アニメーション・デザイン科)	学内	給付	8,075	360		
年限退学時再入学奨学金 (学部：芸術学科)	学内	給付	5,775	45		
年限退学時再入学奨学金 (学部：日本画・洋画)	学内	給付	6,925	53		
年限退学時再入学奨学金 (学部：陶芸・染織)	学内	給付	7,500	26		
年限退学時再入学奨学金 (学部：写真・アニメーション・デザイン科)	学内	給付	8,075	77		
卒業後再度入学奨学金 (学部：芸術学科)	学内	給付	5,775	25	卒業後再度入学制度（コース卒業後、同一コースまたは別コースに入学）による入学者に在籍期間を通じて授業料を3割減免。	
卒業後再度入学奨学金 (学部：日本画・洋画)	学内	給付	6,925	1		
卒業後再度入学奨学金 (学部：陶芸・染織)	学内	給付	7,500	1		
卒業後再度入学奨学金 (学部：写真・アニメーション・デザイン科)	学内	給付	8,075	13		
併修生奨学金 (学部：洋画)	学内	給付	3,083	9	提携する交流校（専門学校）との併修生に在籍期間を通じて授業料を減免。	
併修生奨学金 (学部：情報デザイン)	学内	給付	3,583	58		

## ⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

奨学金（平成22年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

日本学生支援機構奨学金 （学部：第一種・第二種併用）	学外	第一種：貸与 （無利子） 第二種：貸与 （有利子）	17,333	1	夏期スクーリング受講時に奨学金貸与（年間1回）。	希望者は大学へ申込書一式提出。 学内審査を経て、大学より日本学生支援機構へ申請。
日本学生支援機構奨学金 （学部：第二種）	学外	貸与 （有利子）	10,000	1	夏期スクーリング受講時に奨学金貸与（年間1回）。	
日本学生支援機構奨学金 （学部：第二種）	学外	貸与 （有利子）	6,666	1	冬期スクーリング受講時に奨学金貸与（年間1回）。	
日本学生支援機構奨学金 （大学院：第一種）	学外	貸与 （無利子）	4,166	1		
日本学生支援機構奨学金 （大学院：第一種・第二種併用）	学外	第一種：貸与 （無利子） 第二種：貸与 （有利子）	15,666	1		
日本学生支援機構奨学金 （大学院：第二種）	学外	貸与 （有利子）	6,666	1		

課外活動への支援（平成22年度実績）

通信教育部芸術学部・芸術研究科（通信教育）

活動支援の名称	学内・学外	給付・貸与	1件あたりの金額	平成22年度採用人数	要件	申込方法
学生創作研究助成金制度 ※1	学内	給付	32,000～ 119,000	6	—	4～5月に大学へ申込、企画内容の事前審査を経て企画実施後に報告書を提出。2月に最終的な助成額決定。
学習会活動支援	—	—	—	19	学生が自主的に開催する学習会に対して、一定の基準を満たす場合に、学生からの申請により教員を派遣する場合がある。その場合の派遣にかかる経費を大学で負担する。	実施一ヶ月前までに大学へ申込。

※1…学生創作研究助成金制度

通信教育部の学生は47都道府県に在住しているため、本制度により地域社会の中で芸術文化の活性化を目指す創作・研究活動を行う学生に対し、その趣旨、具体的企画内容を審査の上、助成を行なっている。

1件あたり上限20万円とし、助成額は申請額および内容を審査のうえ決定する。

産官学連携について

No	受託研究名	期間	委託機関	概要	学生関与 (人数)	単位認定
1	「smart meet KYOTO」	2010.10-2011.6	メルセデスジャパン	メルセデス・ベンツが誇る「スマート（電気自動車）」の存在を多くの人に知ってもらい、ベンツの顧客でなかった人々に店舗（京都地区3店舗）へ足を運んでもらうため、スマートの持つ特別感の醸成と商品特性を端的に伝えるディスプレイの企画提案から制作まで一貫して行った。各店舗2週間展示。ディスプレイはお客様に好評であった。最後の店舗ディスプレイは5月24日で終了。	有（14名）	有
2	近代産業遺産アート再生プロジェクト	2011.4-2012.3	本学自主企画	京都六原地域に点在する近代産業遺産である「建造物」「風景」「文化」「伝承」「伝説」「人材」を中心に、現地でのフィールド調査を重ね、アート目録で捉えなおし、発表として、学生が専攻を活かしながら計5回、六原地域各所でイベント実施した。さらに、それらの成果をまとめた100ページ以上の冊子を発行。観光資源開発と地域振興と地域コミュニティーのあり方開き方を学んだ。	有（32名）	有
3	粟田神社・夜渡り神事プロジェクト2011	2011.5-2011.10	粟田神社	2008年より継続されたプロジェクト。京都東山にある粟田神社最大の祭礼行事「世渡り神事」を180年ぶりに復活させた。神社や周辺地域の歴史・伝承等を調査、京都の歴史・芸術・文化・風土等を掘り下げ、「大燈呂」のデザインを提案。採用された案の制作に取り組んだ。神事では「大燈呂」とともに巡行し、モノ創りに関する「モノガタリ」が如何に必要であるかを経験、より一歩進んだグループワークを体験した。	有（16名）	有
4	藤井大丸ウィンドウディスプレイ	2011.4-2011.12	藤井大丸	老舗百貨店「藤井大丸」の四条通りに面したショーウィンドウのクリスマスディスプレイを提案・制作した。ディスプレイ商材を踏まえ、設定したテーマに基づき演出プランを作成し、クライアントに対しプロジェクト生によるプレゼンを行い、決定したアイデアをデザイン、展示を行った。	有（21名）	有
5	田の字地区活性化プロジェクト2011	2011.5-2012.3	田の字地区活性化委員会	京都市中心部「田の字地区」の魅力を再発見し、PRするWSを開発し実行するプロジェクト。織物などまちに根づく伝統文化や新しい観光資源を手軽に体験できるプログラムを考案。伝統産業の日に合わせて京都市役所前広場にて大々的に実施した。	有（11名）	有
6	学生自主企画「兵プロジェクト」	2011.5-2011.11	学生自主企画	学生が自ら企画したプロジェクト。過去に一度あった（2007年度）がそれ以来である。戦国時代をコンセプトとし「芸術と人を歴史で繋げる」をスローガンに「鎧・兜」をテーマにした公募展、ワークショップⅠ・Ⅱ、トークショー、企業連携の商品企画制作、歴史を学ぶツアーなど盛りだくさんの展開。これらを進修・運営するためのノウハウ、企業への協賛金・協力の取り付け、広報活動など、一から起すイベントの手法等を学ぶ。後援6社、協賛16社を獲得。	有（18名）	有
7	「Kyooohoo」デザイン開発プロジェクト	2011.5-2012.3	京都産業21	2009年度より継続されたプロジェクト。7社の伝統産業系企業と京都産業21からの受託により、18名の学生が商品開発に挑戦。密度の高い活動を展開、ブランド構築に照準を合わせた共通課題と各企業から出された個別課題に応え、オリジナルキャラクターのデザインと、それを活用したアイテム開発で成果を上げた。	有（18名）	有
8	天若湖アートプロジェクト	2011.5-2011.8	天若湖アートプロジェクト実行委員会	平成10年に京都府日吉町に完成したダム湖「天若湖」。天若湖アートプロジェクトではアートの力により、地元と流域内外からの来訪者が、ともにこの場所の意味について考える機会を創り出すことをめざしている。利用桂川流域のNPO、大学が集結し、インスタレーションやワークショップを開催。8月にはメインイベントである「あかりがつなぐ記憶」は、ソーラーライトを湖面上に浮かべ、水没した集落を再現する。プロジェクトセンター企画としては、11年度で以て終了。	有（10名）	有
9	アートフェスタ大山崎2011	2011.5-2011.11	大山崎町	5年目となるこのプロジェクト。「大山崎町のことをもっと好きになる」をコンセプトに、離宮八幡宮でのライトアップ&ライブをはじめ、えごま（灯明）、竹、お茶、河陽十詠など町の歴史文化を背景としたイベントを展開。	有（17名）	有
10	NOW JEWERY AWARD	2011.5-2012.3	本学自主企画	ジュエリーは身につけるもの。ジュエリーは飾るもの。ジュエリーは光るもの。ジュエリーは高価なもの。そのようなイメージの覆いをめくって、新しいジュエリーを発見したい。今、ジュエリーでないものが、未来のジュエリーになる。今年のテーマは「1COIN」=500円。制作費500円のジュエリーアワード開催。	有（7名）	有
11	温泉津海神楽プロジェクト2011	2011.5-2011.10	実行委員会	過疎化・少子化が進む島根県温泉津町で郷土芸能「石見神楽」に焦点をあて、2005年より学生が神楽を習得し学生企画「海神楽」を現地で上演。最近では、約600名近い観客を動員する地域の夏の一大イベントとなり、継続される本活動は現地に認知され定着している。	有（19名）	有
12	島根県ものづくりプロジェクト	2011.5-2011.8	島根県産業振興財団	島根の伝統工芸における事業承継を目的としたワークショップ事業実施業務。島根、松江地区の特殊な来待石を陶夢工房と組みながら商品開発や実作を行い、来待石の可能性と地域社会の活性化を担う集中事業。	有（14名）	有
13	鳥取佐増制作ワークショップ	2011.5-2011.8	鳥取市気高町	鳥取市にある浜村海岸で10年来行われてきた砂の彫刻制作を受け継ぐプロジェクトとして、11年度より新たにスタートした。砂像制作を介した地域交流ワークショップ。鳥取市気高町にある貝がら館の里「ヤサホーパーク」において、18名の学生が現地に滞在をし、学生が考えた砂像を展開。また、砂像作りを通じて、夏祭りへの参加や地元中学生との交流も行う。	有（18名）	有
14	『時の贈りもの』 - GUCCI 90年のアーカイブ展 -	2011.5-2011.10	GUCCI	グッチ創設90年を記念して、その歴史とフィレンツェの伝統皮革工芸のクラフトマンシップを象徴するグッチアーカイブを京都の歴史的建造物である鹿苑寺金閣（金閣寺）「方丈」にて特別展示。本学学長・千住博氏監修のもと、京都の伝統と芸術文化を体現する歴史的建造物とフィレンツェの職人技の伝統が完璧に融合し、時代も国境をも越えた普遍的価値を伝える展覧会を実施。金閣寺の他、本学オープン、グッチ銀座店でも展覧会を展開。	有（21名）	有
15	進々堂プロジェクト	2011.5-2012.1	進々堂	2013年に創業100周年をむかえる京都のペーカリーショップ進々堂の記念事業の企画から実施までを検討。新しいパンの開発と店舗調査などを行った2010年度に続き、同時に提案を行ったイベント企画などを実施。	有（21名）	有
16	プロジェクト応援隊	2011.5-2012.3	本学自主企画	学内で行われている様々なプロジェクトメンバーが一同に会し、その成果を発表しあうプレゼンパーティー。学内への情報収集活動とイベント内容の立案などを行い、それをUstreamで配信するなどし、200名近い来客をカフェ@に集めた。ゲストには、同志社大学PBL推進支援センター長山田 和人氏にもお越しいただき、講評をいただいた。	有（12名）	有
17	アレッシワークショップ	2011.7-2011.11	ALESSI	イタリアのキッチンウェアメーカー-ALESSI（アレッシィ）が製造販売する新製品の候補を企画提案。ワークショップでは、ALESSIのマーケティング担当者や製造部門と意見交換を行い、製品をブラッシュアップした。	有（20名）	有
18	フラクサス（ワールド）WD	2011.7-2011.12	株式会社ワールド	アパレル大手のワールドがイオンモールに展開している複合ブランドショップのクリスマス商戦に合わせた、ウィンドーディスプレイのためのデザイン制作。その他、親子向けアートワークショップも実施。	有（24名）	有
19	造形大大学院	2011.7-2012.3	いろは出版	高校生向けの大学公式の学生募集パンフレットを、いろは出版の社員の方々と共に編集、デザインなどを行い、本作りのプロセスを学んでいくプロジェクト。	有（8名）	有
20	造形大ライトアップ2011	2011.10-2011.11	本学自主企画	毎年恒例となっている、本学人間館の柱を利用したイルミネーションと、これに続くピロティ一部にLEDライトを使用した、クリスマスイルミネーション。毎年テーマを設定し、デザインを作成。通りを行く人や学内を出入りする人を楽しませた。	有（18名）	有
21	ホスピタルアートプロジェクトHAPPii+	2011.10-2012.	NPO/府立医科大学	医療空間にアートがかかわるプロセスを体験することを通して、アートの力が人と空間をどのように変えるかを実感することを目指す。プロジェクトとして3回目の今回は、京都府立医科大学付属病院新病棟・小児外来診療エリアを舞台とする。コアスタッフは、現地見学から構想、病院へのプレゼンテーション、下絵制作や現地制作に向けた準備を行う。そして、1〜2月頃に集中して現地に制作（壁画制作を予定）。体験後の報告書作りまでを活動とする。	有（40名）	有
22	シリコンゴムを使った生活雑貨開発	2011.10-2012.2	共和ゴム	工業用ゴム製造企業、共和ゴムにより依頼を受けて、シリコンゴムを素材としたエンドユーザー向けの生活雑貨の開発。同社社長とデザイナー、藤井先生の審査により、3名4案が選ばれ商品化に向けて継続して取り組み中。	有（14名）	有
23	京都・東山花灯路2012	2011.12-2012.3	京都市	2012年3月10日から20日にかけて円山公園内で開催される、京都・東山花灯路の「大学のまち京都・伝統の灯り展」に、学生達の作品3点を出品、展示する。学生たちが制作した芸術性豊かな作品を来場した観光客にアピールする、絶好の場となると考える。	有（21名）	有
24	二条城ライトアップ2012	2012.1-2012.4	京都市観光協会	8万人近い来城者を集める、京都の春の一大イベント。世界遺産に登録されている二条城を舞台にライトアップ期間中、城内を趣のある雰囲気演出する竹材による照明器具の制作・設置を行う。担当教員の指導の下、竹藪での竹の切り出しから、運搬、デザイン、製作、設置、そして搬出までの全ての作業、また期間中は同学生がシフトを組み、城内来場者の対応なども執り行う。	有（22名）	有
25	次世代ロボットデザインプロジェクト	2011.10-2012.3	豊橋科学技術大学	愛知県の豊橋科学技術大学の工学技術とプログラミング力、本学のデザイン力のコラボレーションから生まれる先進的成果を国内外に発信。エンジニアとデザイナーの実践的研究制作。	有（12名）	無
26	小山薫堂アシスタント	2011.4-2011.12	京都ハンナリーズ	アカデミー賞受賞映画「おくりびと」の脚本でも知られる、放送作家の小山薫堂氏が広報アドバイザーを務めるプロバスケットボールチーム・京都ハンナリーズの試合への集客アップを目指すプロジェクト	有（3名）	無
27	社会芸術ゼミ	2011.5-2012.1	本学自主企画	旧岩元ゼミの発展形として、プロデューサー育成を目的としたゼミ。映画プロデューサーの古賀先生や、サウンドクリエイターの岩本先生、映画俳優の水上先生も指導陣に加わり、コンテンツ業界において日本が弱いとされているプロデューサー育成を、作品制作を通じて行う。	有（13名）	有
28	ヤノベケンジプロジェクト	2011.5-2011.10	茨木市	①MANUALITY（マニユアリティ）/アーティスト銅釜裕司とヤノベケンジとのコラボレーションプロジェクト。（前期中心）/地球規模のエネルギーサイクルを考察、研究し植物と関わる作品を制作する。 ②MONUMENT（モニュメント）/ヤノベケンジ・彫刻制作プロジェクト。（後期中心）/サヴァイヴァルをテーマにチェルノブイリでのプロジェクトなどを敢行した作家の3.11以降を新作彫刻作品で表現する。パブリックアートとして2012年春、関西都市部に設置予定	有（21名）	有
29	ULTRA×SANDWICH	2011.5-2012.3	ウルトラファクトリー	名和晃平の作家活動の全貌を間近で目撃・体験するプロジェクト。一人のアーティストが、いかにしてプロジェクトを動かし、チームを束ね、アイデアを練り、方法や技術を立ち上げ、作品を生み出すのか、というリアルな現場を共有する。参加者は、人と情報が行き交うクリエイティブ・プラットフォーム「SANDWICH」における制作・企画・運営、及びウルトラファクトリーの「クリーンルーム」における素材実験・技術開発に関わる。	有（12名）	有
30	やなぎみわ演劇プロジェクト「1924」	2011.5-2011.10	ウルトラファクトリー	本プロジェクトでは、やなぎみわによる演劇公演の「1924」3部作の制作。脚本作成補助・舞台美術の制作に携わる。主に脚本理解のためのリサーチ、稽古見学、舞台のための衣装・小道具・映像制作を行う。時は1924年。舞台は関東大震災からわずか10ヶ月後に初公演を成し遂げた築地小劇場。近代演劇の実現を夢に、驚くべき行動力で日本初の小劇場を創設した芸術家を描く。	有（8名）	有
31	高橋匡太「国民文化祭オープニングステージワークス」	2011.5-2011.10	ウルトラファクトリー	国民文化祭京都2011などのプロジェクトを通じて、アーティスト高橋匡太と「出来事」を起こしていく。本プロジェクトでは、国民文化祭のステージワークを中心に据え、Nutri Blanche KYOTO、ヨコハマライトフェスティバル等を通じて、光や映像により出来事起こすプロセスや、映像および舞台美術の制作からステージ本番までの舞台美術の一連のプロセスなどを体験する。	有（16名）	有
32	クリティカルデザインラボ	2011.5-2012.4	ウルトラファクトリー	クリティカルデザインラボは、学科間の壁を横断的に侵犯するデザインを研究・発見・発表することで創造力を新境地へと開拓せしめるよう導く、ウルトラデザイナー養成のための殊教育機関である。本年度は2つのデザインプロジェクトを行い、修了展で発表、実施の内容をまとめたyear bookを作成する。	有（16名）	有

## 産官学連携について

No	受託研究名	期間	委託機関	概要	学生関与 (人数)	単位認定
33	BY EDIT	2011.5-2012.3	ウルトラファクトリー	バイエディットでは、京都造形芸術大学そのものを新たな場、メディアとして捉え、今はまだ十分に機能していないように見える資源、人材などを再発見し、最大限に活用していく。キーワードは「EDIT IT YOURSELF 表現者のための編集」。あらかじめ決められた目標、ゴールを目指して進むプロジェクトではないため、迂回や寄り道、停滞とも思える時間も共有することになるが、それらの時間を通して、実験的に新しいULTRAのかたちを見出していく。	有(13名)	有
34	ウルトラアワード2011	2011.5-2012.3	ウルトラファクトリー	京都造形芸術大学・ウルトラファクトリーが主催する、世界で活躍できる次代のウルトラアーティストを発掘、育成するコンペティション「ULTRA AWARD」。第2回目の開催となる今回は、厳正なる審査を経て5名のアーティストが選抜され、ウルトラファクトリーを舞台にそれぞれ公開制作を展開中。7月からの約4ヶ月間の制作期間を経て、京都・三条art project room ARTZONEでの展示会場にて最優秀賞が決定する。	無	無
35	立体曼茶羅作成	-2011.8	新熊野神社	新熊野神社が保有する熊野本地仏曼茶羅における立体曼茶羅の制作。完成は2011年8月の予定	有(5名)	無
36	紙のお香商品化	-2011.10	小倉山香房	世界でも数少ない、紙のお香の技術を持つ小倉山香房(京都市)の、初めての自社表品開発にあたっての、商品提案。本学及び専門学校での参加によるコンペを実施。陶芸の学生の協力も得ながら、最優秀デザインを商品化に向けて、活動を継続中。なお、本事業は、京都産業会館の助成を受けた。	有(4名)	無
37	退蔵院襖絵制作	2011.4-2013.9	退蔵院	退蔵院方丈内の襖絵作成にあたっての、絵師の手配及び制作指導。本学卒業生が、退蔵院との業務委託を受ける形で、襖絵を作成。2013年の秋に完成予定	有(1名)	無
38	松江武者行列 演出・プロデュース	2011.1	松江市	本事業委託企画にあたっては、「松江武者行列」が平成19年4月より開始された『松江開府400年祭』としてふさわしい演出となる企画を行うものとし、2011年秋の松江市の観光振興に繋げることを目的とする。	無	無
39	ステューデントデザイナーによるマンションリフォームプロジェクト	2011.5-2012.2	梶長栄	このプロジェクトは、環境デザイン学科の教授の指導のもと、京都造形芸大生が、実際に自分が住みたいと思うような室内のリフォームプランを提案する。 2011年4月から2012年3月までを4期に分け、1期毎に参加学生を募集し、約2ヶ月をかけてプランを作成、一人ずつプレゼン形式で、リフォーム提案。優秀作品については、実際にリフォームを行い、完成した部屋の見学会を行う予定です。	有(14名)	有
40	やましる	2011.6-2011.9	山城青年会議所	山城地域の寺社を周り、伝承などを冊子にまとめるプロジェクト	有(5名)	無
41	関西国際空港Satellite2.0商品開発	2011.7-2012.2	関西国際空港	関空オリジナルグッズショップSatellite2.0のための商品開発企画。学生がプロデューサーとなり、京都のメーカーとコラボレーションした風呂敷や、ガチャガチャガムのデザインを提案、商品化となる。	有(9名)	無

**【海外提携校と単位互換の状況について】**

国名	学校名	提携年	単位互換の有無
メキシコ	ラ・エスメラルダ美術学校	1993年	有
オーストリア	ウィーン美術大学	1995年	有
中国	西安文理学院	1996年	有
韓国	世宗大学校	1999年	有
韓国	桂園造形芸術大学	2000年	有
韓国	韓国国際大学校	2001年	有
韓国	培材大学校	2001年	有
スイス	チューリッヒ芸術大学	2002年	有
韓国	弘益大学校	2003年	有
スイス	ジュネーブ造形芸術大学	2004年	有
韓国	延世大学校	2007年	有
韓国	韓国芸術総合学校	2008年	有
韓国	韓国伝統文化学校	2008年	有
イギリス	グラスゴー美術学校	2009年	有
アメリカ	マサチューセッツ造形芸術大学	2011年	有
台湾	国立台北芸術大学	2011年	有
イタリア	ボゼン・ボルツァーノ自由大学	2011年	有
イギリス	ボーンマス芸術大学	2011年	有
スウェーデン	スウェーデン国立工芸デザイン大学	2011年	有
フランス	セルジー国立芸術高等学院	2012年	有

**【海外派遣学生数学生数】**

通学部	
スイス	2
スウェーデン	1
アメリカ	1
	4

**【国籍別外国人学生数】**

通学部	
タイ	2
韓国	108
台湾	9
中国	20
ベトナム	1
シンガポール	1
インド	1
香港	2
	144

大学院（修士）	
レバノン	1
韓国	10
台湾	6
中国	12
タイ	1
香港	1
ロシア	1
ウルグアイ	1
インドネシア	1
ブラジル	1
	35

大学院（博士）	
イタリア	1
韓国	1
台湾	1
中国	2
	5

## ■学校法人会計と企業会計の相違点について

資金収支計算書は当該年度の教育研究活動に伴う全ての収入・支出の資金の流れを示したもので、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いものとなっている。消費収支計算書は、当該年度の収入・支出の損益を示したもので、企業会計の損益計算書に相当するものである。基本金組入額は、学校運営で必要となる基本的な設備・備品(校地・校舎・備品・図書等)の資本的支出に充当するためのものである。資金収支計算書で本学園の1年の活動を、消費収支計算書で経営状態を、また貸借対照表で財務状態をご理解ください。

## ■平成23年度決算報告

### 1. 消費収支計算書

平成23年度は帰属収入が8,224百万円、消費支出が7,758百万円となり、予算に対し決算では収支差額がいずれも増加した。なお、本年度は退職給与引当金繰入率を90%から100%に変更するための変更時差異が170百万円、資産精査により発生した資産処分差額244百万円が単年度の特異要因として発生している。寄付金は瓜生サービスや外部企業から特別寄付の増加によるもの。事業収入の予算比増加は、受託事業の増加によるもの。教育研究経費および管理経費の予算との乖離は、支払科目の確定と予算執行の厳格化によるものである。

### 2. 資金収支計算書

収入の部、支出の部合計ともに予算額より290百万円増の12,040百万円となった。収入の部では前受金収入141百万円増加、およびその他収入の53百万円増加は決算による確定。教育研究経費および管理経費の増減、および施設関係支出および設備関係支出の増減は、決算に伴う科目確定によるものであり、その増減合計が15百万円の減少となっているのは予算執行の厳格化によるものである。

結果、次年度繰越支払資金が502百万円増の4,181百万円となり、前受金4,138百万円を超える結果となった。

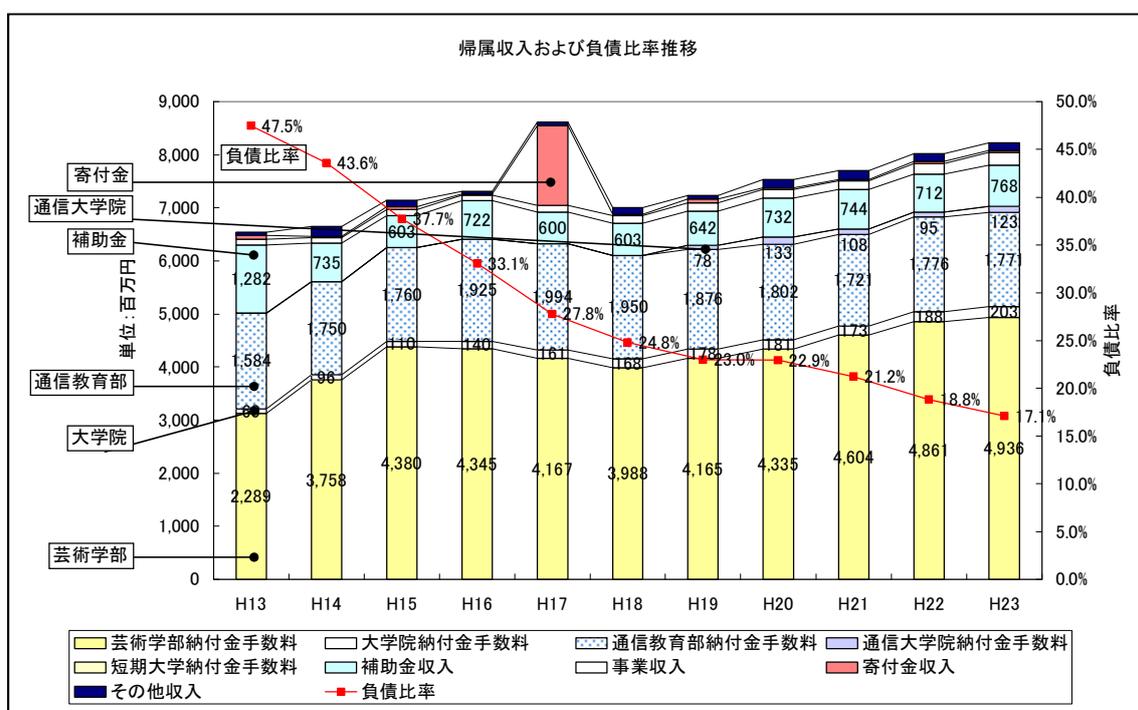
### 3. 貸借対照表

資産の部については、瓜生館取得による増加と、減価償却による減少、現預金の増加などにより34百万円の増加となった。また、長期借入金返済は返済一年以内のものも含め3,587百万円となり、前受金除く負債率が17.1%となった。

## ■平成23年度財務状況報告

### 1. 概況

平成23年度決算では帰属収入が8,224百万円となり、昨年度の8,021百万円から203百万円の増加となり、平成17～18年度に定員超過率の是正のため入学者を抑制した後、一貫して増加を続けている。内訳では、通信教育部芸術学部が前年比で若干減少したものの、その他の課程は全て増加した。平成13年度にピークだった長期借入金10,864百万円は順調に返済が進み、平成21年度に未来館購入のための調達した714百万円についても、240百万円の返済をおこなった。これにより、借入金の残高が3,587百万円となり、負債比率(前受金除く)はピーク時の47.5%から17.1%と、同規模法人平均9.9%(22年度)と比して高い水準ではあるが、減少を続けている。



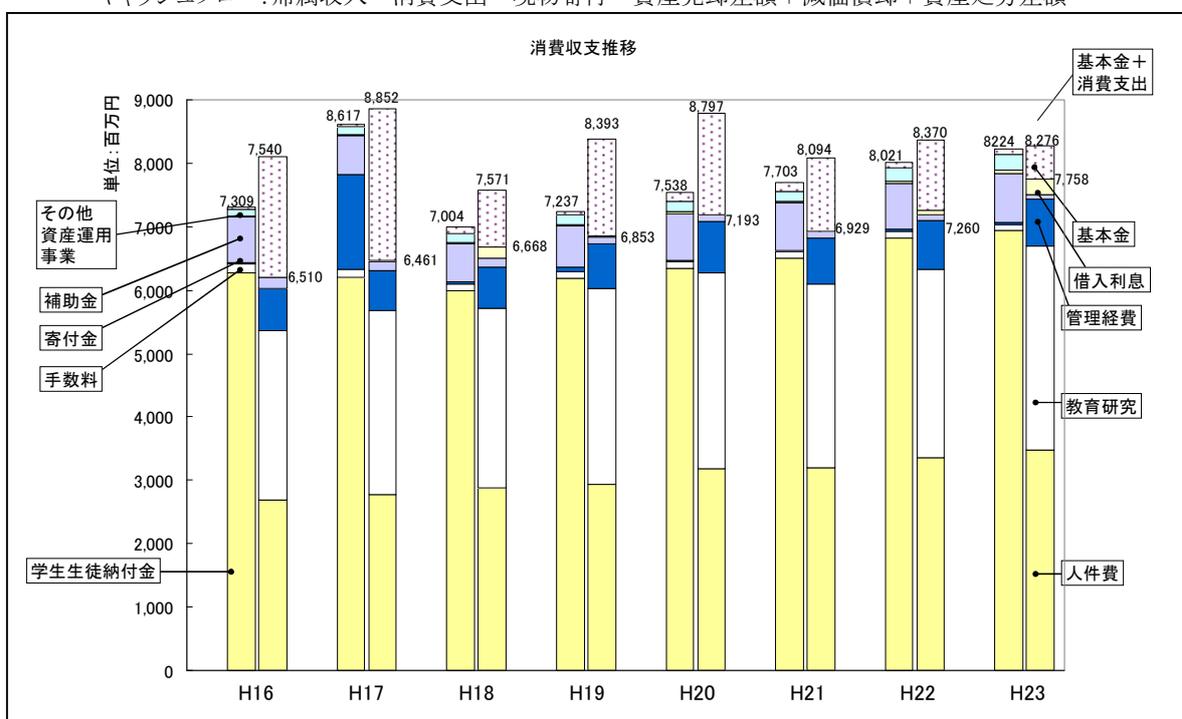
単位: 百万円

	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
通学部納付金+手数料	3,127	3,758	4,380	4,345	4,167	3,988	4,165	4,335	4,604	4,861	4,936
大学院納付金+手数料	85	96	110	140	161	168	178	181	173	188	203
通信教育部納付金+手数料	1,802	1,750	1,760	1,925	1,994	1,950	1,876	1,802	1,721	1,776	1,771
通信大学院納付金+手数料							78	133	108	95	123
短期大学納付金+手数料	6										
補助金収入	1,282	735	603	722	600	603	642	732	744	712	768
事業収入	103	102	112	106	125	145	157	165	157	206	246
寄付金収入	77	19	61	23	1,508	24	70	25	27	43	34
その他収入	59	188	119	48	63	125	71	165	170	140	143
<b>帰属収入合計</b>	<b>6,540</b>	<b>6,648</b>	<b>7,144</b>	<b>7,309</b>	<b>8,617</b>	<b>7,004</b>	<b>7,237</b>	<b>7,538</b>	<b>7,703</b>	<b>8,021</b>	<b>8,224</b>
借入金	10,864	9,876	8,253	7,110	6,289	5,505	5,034	5,165	4,875	4,231	3,587
負債比率(前受金除く)	47.5%	43.6%	37.7%	33.1%	27.8%	24.8%	23.0%	22.9%	21.2%	18.8%	17.1%

## 2. 収支の状況

平成23年度のキャッシュフロー\*は1,732百万円、帰属収入比21%となり、同規模法人平均値14%(平成22年度)と比して高い水準となった。帰属収入に対する消費支出の比率が94%と増加しているが、資産精査による資産処分差額および退職給与引当金繰入率を80%から100%への変更時差異による単年度の影響を除くと89%となり、同規模法人平均値97%と比して良好な水準を保っている。また、人件費比率も42%となっているが、退職給与引当金特別繰入組入額の影響を除くと40%となっている。しかしながら、今後は旧耐震基準で建築された校舎の耐震対策工事、老朽化した校舎の改修工事、CO2削減対応などの事業が見込まれることから、現状の収支水準を維持しながら、ストックの健全化を図りたい。

\*キャッシュフロー：帰属収入－消費支出－現物寄付－資産売却差額＋減価償却＋資産処分差額



単位：百万円

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年								
学生生徒納付金	6,268	86%	6,197	87%	5,990	86%	6,189	86%	6,347	84%	6,507	84%	6,820	85%	6,940	84%
手数料	141	2%	124	2%	116	2%	108	1%	105	1%	99	1%	101	1%	92	1%
寄付金	23	0%	1,508	21%	24	0%	70	1%	25	0%	27	0%	43	1%	34	0%
補助金	722	10%	600	8%	603	9%	642	9%	732	10%	744	10%	712	9%	768	9%
資産運用	16	0%	20	0%	19	0%	24	0%	30	0%	25	0%	43	1%	52	1%
事業	106	1%	125	2%	145	2%	157	2%	165	2%	157	2%	206	3%	246	3%
その他収入	33	0%	43	1%	106	2%	47	1%	135	2%	145	2%	97	1%	91	1%
<b>帰属収入合計</b>	<b>7,309</b>	<b>100%</b>	<b>8,617</b>	<b>100%</b>	<b>7,004</b>	<b>100%</b>	<b>7,237</b>	<b>100%</b>	<b>7,538</b>	<b>100%</b>	<b>7,703</b>	<b>100%</b>	<b>8,021</b>	<b>100%</b>	<b>8,224</b>	<b>100%</b>
基本金組入	△ 1,905	-26%	△ 2,391	-21%	△ 883	-13%	△ 1,540	-21%	△ 1,604	-21%	△ 1,155	-15%	△ 1,110	-14%	△ 518	-6%
<b>消費収入合計</b>	<b>5,404</b>	<b>74%</b>	<b>6,226</b>	<b>79%</b>	<b>6,121</b>	<b>87%</b>	<b>5,697</b>	<b>79%</b>	<b>5,934</b>	<b>79%</b>	<b>6,548</b>	<b>85%</b>	<b>6,912</b>	<b>86%</b>	<b>7,705</b>	<b>94%</b>

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年								
人件費	2,696	37%	2,779	39%	2,876	41%	2,937	41%	3,190	42%	3,192	41%	3,351	42%	3,474	42%
教育研究経費	2,664	36%	2,905	41%	2,840	41%	3,090	43%	3,084	41%	2,900	38%	2,981	37%	3,230	39%
管理経費	670	9%	625	9%	656	9%	699	10%	814	11%	727	9%	771	10%	733	9%
利息	170	2%	143	2%	125	2%	111	2%	102	1%	105	1%	88	1%	76	1%
資産処分等	4	0%	8	0%	191	3%	15	0%	4	0%	5	0%	69	1%	245	3%
<b>消費支出合計</b>	<b>6,205</b>	<b>85%</b>	<b>6,461</b>	<b>91%</b>	<b>6,688</b>	<b>95%</b>	<b>6,853</b>	<b>95%</b>	<b>7,193</b>	<b>95%</b>	<b>6,929</b>	<b>90%</b>	<b>7,260</b>	<b>91%</b>	<b>7,758</b>	<b>94%</b>

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年								
<b>キャッシュフロー</b>	<b>1,792</b>	<b>25%</b>	<b>1,385</b>	<b>16%</b>	<b>1,246</b>	<b>18%</b>	<b>1,099</b>	<b>15%</b>	<b>1,100</b>	<b>15%</b>	<b>1,555</b>	<b>20%</b>	<b>1,649</b>	<b>21%</b>	<b>1,732</b>	<b>21%</b>

## 財 産 目 録

(平成24年3月31日現在)

I 資産総額	26,057,759,556 円
内 基本財産	21,041,957,911 円
運用財産	5,015,801,645 円
収益事業財産	0 円
II 負債総額	8,596,375,494 円
III 正味財産	17,461,384,062 円

区分	金額
資産額	
1基本財産	
土地	75,339 m <sup>2</sup> 5,385,330,962 円
建物	67,012 m <sup>2</sup> 13,329,020,159 円
図書	183,468 冊 853,085,794 円
教具・校具・備品	6,760 点 1,159,360,593 円
その他	315,160,403 円
2運用財産	
現金預金	4,180,668,681 円
その他	835,132,964 円
3収益事業用財産	
	0 円
資産総額	26,057,759,556 円
負債額	
1固定負債	
長期借入金	2,948,280,000 円
その他	529,814,365 円
2流動負債	
短期借入金	638,250,000 円
その他	4,480,031,129 円
負債総額	8,596,375,494 円
正味財産 (資産総額－負債総額)	17,461,384,062 円

## 貸借対照表

平成24年3月31日

(単位：円)

資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定資産		21,594,105,799	21,972,844,950	△ 378,739,151
有形固定資産		21,205,719,026	21,471,503,222	△ 265,784,196
土地		5,450,325,302	5,450,325,302	0
建物		13,468,581,196	13,653,096,629	△ 184,515,433
その他の有形固定資産		2,286,812,528	2,368,081,291	△ 81,268,763
その他の固定資産		388,386,773	501,341,728	△ 112,954,955
流動資産		4,463,653,757	4,051,108,874	412,544,883
現金・預金		4,180,668,681	3,833,471,740	347,196,941
その他の流動資産		282,985,076	217,637,134	65,347,942
資産の部合計		26,057,759,556	26,023,953,824	33,805,732
負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定負債		3,478,094,365	4,070,717,911	△ 592,623,546
長期借入金		2,948,280,000	3,586,530,000	△ 638,250,000
その他の固定負債		529,814,365	484,187,911	45,626,454
流動負債		5,118,281,129	4,957,514,202	160,766,927
短期借入金		638,250,000	644,250,000	△ 6,000,000
その他の流動負債		4,480,031,129	4,313,264,202	166,766,927
負債の部合計		8,596,375,494	9,028,232,113	△ 431,856,619
基本金の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金		26,965,999,752	26,447,611,393	518,388,359
第4号基本金		509,000,000	509,000,000	0
基本金の部合計		27,474,999,752	26,956,611,393	518,388,359
消費収支差額の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額		10,013,615,690	9,960,889,682	52,726,008
消費収支差額の部合計		△ 10,013,615,690	△ 9,960,889,682	△ 52,726,008
科	目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計		26,057,759,556	26,023,953,824	33,805,732

資金収支計算書

平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで

(単位：円)

収入の部

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	6,939,946,000	6,940,086,725	△ 140,725
手数料収入	91,524,000	91,806,840	△ 282,840
寄付金収入	5,000,000	21,308,200	△ 16,308,200
補助金収入	759,740,000	768,199,388	△ 8,459,388
国庫補助金収入	759,419,000	767,878,326	△ 8,459,326
地方公共団体補助金収入	321,000	321,062	△ 62
資産運用収入	49,434,000	51,871,899	△ 2,437,899
資産売却収入	0	2,092,504	△ 2,092,504
事業収入	145,706,000	246,157,526	△ 100,451,526
雑収入	76,825,000	80,553,501	△ 3,728,501
前受金収入	3,998,204,000	4,138,399,830	△ 140,195,830
その他の収入	37,776,000	90,551,452	△ 52,775,452
資金収入調整勘定	△ 4,187,158,000	△ 4,224,160,308	37,002,308
前年度繰越支払資金	3,833,471,740	3,833,471,740	0
収入の部合計	11,750,468,740	12,040,339,297	△ 289,870,557

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,325,553,000	3,326,932,407	△ 1,379,407
教育研究経費支出	2,374,468,000	2,406,855,563	△ 32,387,563
管理経費支出	749,803,000	706,351,726	43,451,274
借入金等利息支出	78,020,000	76,405,163	1,614,837
借入金等返済支出	744,250,000	744,250,000	0
施設関係支出	426,917,000	518,280,257	△ 91,363,257
設備関係支出	234,923,000	169,677,648	65,245,352
資産運用支出	23,266,000	16,830,592	6,435,408
その他の支出	66,381,000	79,486,375	△ 13,105,375
〔予備費〕	150,000,000		150,000,000
資金支出調整勘定	△ 101,650,000	△ 185,399,115	83,749,115
次年度繰越支払資金	3,678,537,740	4,180,668,681	△ 502,130,941
支出の部合計	11,750,468,740	12,040,339,297	△ 289,870,557

消費収支計算書

平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで

消費収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	6,939,946,000	6,940,086,725	△ 140,725
手数料	91,524,000	91,806,840	△ 282,840
寄付金	10,000,000	34,263,647	△ 24,263,647
補助金	759,740,000	768,199,388	△ 8,459,388
国庫補助金	759,419,000	767,878,326	△ 8,459,326
地方公共団体補助金	321,000	321,062	△ 62
資産運用収入	49,434,000	51,871,899	△ 2,437,899
資産売却差額	0	1,898,998	△ 1,898,998
事業収入	145,706,000	246,157,526	△ 100,451,526
雑収入	76,825,000	89,373,310	△ 12,548,310
帰属収入合計	8,073,175,000	8,223,658,333	△ 150,483,333
基本金組入額合計	△ 659,374,000	△ 518,388,359	△ 140,985,641
消費収入の部合計	7,413,801,000	7,705,269,974	△ 291,468,974

消費支出の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,495,991,000	3,473,527,561	22,463,439
教育研究経費	3,215,962,000	3,230,318,841	△ 14,356,841
管理経費	780,073,000	732,793,290	47,279,710
借入金等利息	78,020,000	76,405,163	1,614,837
資産処分差額	252,975,576	243,945,557	9,030,019
徴収不能額	200,000	1,005,570	△ 805,570
[予備費]	150,000,000		150,000,000
消費支出の部合計	7,973,221,576	7,757,995,982	215,225,594
当年度消費支出超過額	559,420,576	52,726,008	
前年度繰越消費支出超過額	9,960,890,000	9,960,889,682	
翌年度繰越消費支出超過額	10,520,310,576	10,013,615,690	

平成 24 年 5 月 25 日

## 監 査 報 告 書

学校法人瓜生山学園  
理事会 御中

監 事 齋藤利一郎 

監 事 松芝政雄 

監 事 湊 信 明 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人瓜生山学園寄附行第 7 条の規定に基づき監査報告を行うため、学校法人瓜生山学園の平成 23 年度（平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで）の業務及び財産の状況について監査を行った。

監査の方法は、理事会及び評議員会、他重要な会議に出席したほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な書類等を閲覧するとともに会計監査人と連携し、必要と思われる監査を行った。

監査の結果、学校法人瓜生山学園の業務は適正であり、計算書類等は当該年度末における財産の状況を適正に表示しており、学校法人の業務または財産に関し不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以上

平成 24 年 5 月 25 日

## 監 査 報 告 書

学校法人瓜生山学園  
評議員会 御中

監 事 齋藤利一郎 

監 事 松芝政雄 

監 事 湊 信 明 

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人瓜生山学園寄附行第7条の規定に基づく監査報告を行うため、学校法人瓜生山学園の平成23年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の業務及び財産の状況について監査を行った。

監査の方法は、理事会及び評議員会、他重要な会議に出席したほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な書類等を閲覧するとともに会計監査人と連携し、必要と思われる監査を行った。

監査の結果、学校法人瓜生山学園の業務は適正であり、計算書類等は当該年度末における財産の状況を適正に表示しており、学校法人の業務または財産に関し不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認める。

以上